

東洋學藝雜誌第四卷第六十六號

明治廿年三月廿五日發兌

○
仕來りの事

是ハ去ぬる二日矢田部長吉君が東京高等女學校の生徒
一同ヨ向つて演說せられたるものなり 編者識

私ハ今日此席よて演說せよとの頼みを受けましたが、
私は生れ付きの訥辨ではあり、且つは植物の講義なら毎
日いたして居ること故、訥辨ながらも少しの出來ると信
じて居りますが、何かあなた方のお心得の一端となること
を申述べせうとしまとと、頗る因却いたします。加之先度
より此席に於きまして二三の先生があなた方のお心得よ
なる事を演說せられたさうでせから、今又私が同じ様な
事イヤ中々同じ様とは行きますまいが、似寄つた事を申し
述べましても諺にいふ蛇の足にて何の役も立ちますま
い。依て何か一つ題を撰んでお話しをしようと思ひ付きま
して撰みましたが、能く考へて見ると此題でお話しをい
たしても、詰り前よ演說せられた先生方のお説よ似奇ッ

た事が多く出さうです。若し出ましたならば平にご容赦
を願ひます。私の擇みました題ハ仕來りの事でございま
す。又習ハせの事とか慣例の事とか申しても宜しうござ
います。尤々此題を撰みましたのは少しは譯がないでも
ございませぬ、段々にお分りよなりませう。決して長話し
ハいたさぬ積りですから暫時お耳と拜借いたしませう。
今私が泥ととりまして塊りといはし、之をあなた方の前
に出しまして之は何でございませうと申さば、あなた方
ハ之ハ言はずとも知れたこと泥の塊りですとねつしやる
でございませう。又私が此コップの周りよ泥を澤山よな
すり付けて能く丸めてあなた方の前へ出しまして、之ハ
何でせうと申しましたならば、あなた方ハ中よコップの
あることなどお存じがなから、矢張泥の塊りだとかつし
やるでございませう。して見ればあなた方計りでなく、
總て人といふものハ物の見掛に依て判斷する事が多いも
のでございませぬ。今私がきたない破れた着物を着て或る
立派な家よ行き、一面識なき其主人に面會と請ふとして
ご覽みさい。主人が取次の者よ如何なる風情の者が來た

かど申すでおさいます。取次の者のありのまゝ、を申しませうが、さうすると主人の十に八九迄の何か事にあつて面會を斷るでございませう。なせなれば世の中よては破れたきたない着物を着て居る者はろくな者でない事が通例ですから、ろんな者に面會の主人のいやがるの無理でない譯でございませう。之に反して私がきれいな着物を着て面會を請ひますれば。一面識なき主人でも或は會ふて呉れる事もありませう。況してや私が役名だの位だのを書き付けた名札を持つて行きますれば、前どハ雲泥の違ひよて主人の十よ八九迄の會ふて呉れるでありませう。なせなれば世の中よてきれいな着物を着て役もあり位もある者は通例あらずものでないからです。併しながら前に申しました泥で包んだガラスのコップも矢張ガラスのコップで、包んだ泥の中にはコップがあるといふことを慥かに知つて居る人は之を中迄泥だといひますまい。又私がいくらきたない着物を着て行かしても、私の性質を知つて居る人はまさか私をろくでなしのならずものとは思ふ事もなさうなものです。其れ故

に初めて見るものは其外觀よ由つて其性質を判斷するときは、間違ふことも往々あることではありますが、一と通りの人間の智慧よての篤と調べて見る迄は外觀によつて斷判するの外はおさいません。併しながら見掛け即ち外觀よ由つて判斷して間違ひのないことは随分澤山あるもので、例へば三十づらをして居りながら二本棒を垂らして居れば、其馬鹿ものなること疑ひおさいますまい。又眼が青く、毛が赤く、鼻が高く、脊が高くして、日本語とは違つた言葉を話して居るものを見れば、西洋人として間違は有りませぬ。長くて、丸くて、廻り紙が張つてあつて、中が明るくて、夜は出で居つて見えますが、晝間の引籠んで見ぬないものは丸行燈でせう。足が四本で、爪が四つで、尾が一本で、顔が長く、ヒンヒン鳴くものハ馬でせう。白くて、四角で、柔かで眞鍮の庖丁で切られて居るものは豆腐でせう。島出に髪を結つて。れ白いをつけて居るものは女か役者でせう束髪で、西洋人の餘りせぬ事によふですが花簪を差して、書物を持って、朝は往き午後には歸るものは女學校の生徒で

せう。此外いくらでも見掛で能く分かるものがあります。斯様に見掛で分かるものが世の中に多くございますから、人に見掛で物事を判断する事が常となつて居ります。町の賣ひ屋に看板を掛けて置くも、醫者が玄關を大きくするも、役人が馬車に乗るも、學者が眼鏡を掛けて居るも、皆見掛で其賣るもの又は職業と人々知らせんが爲めでございます。併し六ヶ敷理屈と唱ふる人の何の見掛に構ふものか、他の物事はイザ知らず、人間といふものは見掛は頓着してなるものか、ツロモンにも優る智慧があり、孔子にも優る道徳があるならば、破れたきたない垢で染めたような着物を着ても構ふものか、行義作法はいるものか、人の前であぐらをかかふがねようが心さへ正しければ行義作法はどうでもよい、社會の習はせ仕來り杯は構つてどうするものかと論することもなまとい云はれません。此等は私には受取られぬ事ですが、又あなた方も勿論受取られぬ事です。うこで世の中には仕來りとか習はせとか慣例とかいふことが肝要になつてくるのでございます。

借仕來りが肝要だと申しましたが、此仕來りと申すものは世の中の進むに随つて變るものですから。此れ話しに誠にしようもない所がございます。例へて申しますなら、私の小供の時よは侍ひの二本の刀即ち大小を腰にたばさんだもので、私も之をたばさんで五里や七里の路を歩いたこともあります。併し此仕來りは今日では少しもなくなつてしまひました。又嫁いた婦人方は皆齒を黒塗にし眉毛を剃り落したものです。是も余程少なくなりました。又丸髻島田髻も中々立派で程のよいものですが、今日では段々よふくなりさうになつて來ました。此外昔しよりの仕來りが今日私共の目の前よ追々消滅失せて仕舞ふを見る事が中々多くございます。世の中がすわつて居る時は仕來りも亦すつて居りまして、變はることが少なくなつてございますが、雑新以來の如く一足飛進みする世の中よては古き仕來りがめちやめちや崩れて仕舞ひます。是が爲めよ時とするに實に宜しくない事も出來ます。全体仕來りといふものは世の中の秩序即ち極まりの爲め無くておられないものと思ひますが、今日の如く

未だ新しい仕來りの出來ぬ中、舊い仕來りがずんずん消えて仕舞つて、誠に困ることを考へます。

併し立派な人でも仕來り杯と賤むものも世の中にありまして、これは獨立の男子なり又ハ女子なりとりきみまして、並はづれの事をするを好むものもありませんが、斯様な人でも能々其する所を分拆して見ると、矢張世の中の仕來りに依つて居ることが多いものです。なんぼ獨立自慢の日本人でも、頭でかじぎをする代りに尻でかじぎをするものがありますまい。又獨立自慢の西洋人でも、手と握る代り又耳を撮むものはありますまい。其外大底の事は仕來りよ従ふもので、此等の人の言ふ所と爲す所とは大層違ふものでかかしい事も往々あります。

俗人間社會よは仕來りが萬事に付き必要ですが、交際上には最も必要と思ひます。取り分け男女の交際に於きましては其必要なることと甚だ感じます。昔しから交際上の仕來りと申すものハ色々あります。例へば婦人が婚禮の席杯よ列します時は、白襟紋付丸髻でなくてはならぬとか、人の前に出る時は髪をかき上げ前掛をはづすとか、

男の客の前に出ねばならぬ事がある時の、下婢なれ何なれ必ず自分の外よ一人を側に置くとか申す類の事が澤山あります。固より心ばへ正しき婦人が獨りで男子の前に出るとも、聊かたりとも間違ひらしき事のない譯ですが、昔しの婦人の正しければ正しき程斯様な仕來りよ心を用ふることも多かつたさうでおさいます。昔しの仕來りの中よは今日にては行はれぬ事もありますが、能く其時代の事情を考へてみると、至極尤の事が多いと思はれます。今日よなりましたハ時勢が餘程變つて來まして、西洋流の事が次第々々はいつて來まして、私共も昔しと違ひ西洋服を着て居り横文字の書物杯をひねくりましますことよなりましたら、私共の交際上にも餘程西洋風の仕來りよ用ひなければならぬようよなりました。

俗又昔しよようよ男女の交際が少ない時代に於きましては、交際の心得も今日ほどには必要ではなかつたかも知れませんが、今日よなりましたは男女の交際の甚だ必要だといふ事になりましたら、交際の心得も亦極めて必要よなりました。此男女交際の事よ付きまして一つお話し

がありません。數年以前に私が或る地方の開港場に逗留いたまされた事がありますが、其地に居りました或る外國の領事は全体餘り賢き人でなくては人望が少いとか申す事ですが、其細君は極めて交際の上手なる賢き婦人です。から、細君の爲め其領事の務め續いて居ると申す事がありました。私も其宅にて面會いたしましたことがありますが、其領事先生も賢くまいと決して思ひませぬ。だが、成る程其細君の評判の通り賢い婦人でありました。日本人でも此後段々と細君が交際の事よ加ふるようよあります。細君がぼくねんじんで困るでせう。且又細君の西洋風の交際の仕來りを心得て居て、淑女の行狀振舞に恥づる所なき様にせねばありませんと思ひます。昔のようよ女子の教育が甚だ不完全なる時代よ於きまして、婦人方が始終家の内に引籠んで居られましたらうが、今日の如くあな方を始め婦人方が立派な教育を受けられて我邦の言葉の讀み書きは勿論、裁縫の事、家事經濟の事、物理學の事、理學の事、化學の事、博物學の事のみならず、英語の讀み書き會話等も自在よ出来る様にあり

ましたらう、昔のようよ家の内に閉籠められて満足せぬの勿論の事です。其れ故種々の集會杯がありまして、男女打雜る事も追々よ多くなりました。それ夜會だ、それ園遊びだ、それダンスだ杯とて婦人方が出掛けらるゝ事の甚だ結構な事で、之が爲め婦人方よ利益あるのみならず、男子も亦行狀が善くなりすから、双方の爲めよ宜しい事です。併し男女打雜りまして集會杯いたします時、交際の仕來りを善く心得て居りませぬと見苦しい事も出来ぬと云われませぬ。心から心の正しい人でも優美ある社會の仕來りに構はずに勝手次第の舞振とするとき、其社會よ容れられませぬ、人々にいやがられますから、詰り自分の樂みもあくあります。社會の仕來りと申すものは下度人の衣服のようなものです。衣服杯よ構ふものかと云ひまして、物好きよ破れ着物を着て威張つて見た所で人に嫌はれてつまらぬことです。之と同じ事で社會の仕來りの如き小ひさ事に構ふものといひまして、勝手氣儘の振舞を爲すもの、唯人々に氣違ひとか馬鹿ものとかせらるゝのみです。此頃の

夜會であつたか、餘程前の夜會であつたか、其れハ申しませんが、或男子が奇妙な人でありまして、其心根ハ決して悪くハありませぬが、交際の仕來りハ構ハあいと見なしまして、婦人方が威儀を正しくして並んで坐つて居る前で高聲よて此等の婦人ハ其衣裳の方が顔よりも餘程立派だど二三度繰返して其近傍の人に語りまして、聞くものをして冷汗ヲ流さしめたさうです。又此人ハ舞踏の眞中よ握り拳を拵へてノッノッハいり込んで歩き廻つたさうです。此人の如きは其心情を察するに誠よ氣の毒ともおんとも云はれぬ程でおさいます。此人は其れでよいと思つて居るでせうが、外の人は皆野蠻として密かに笑て居たさうです。婦人方の面前よて其惡口をひひ又は坐敷能との坐敷狂言とか云ふ催しのある時に招かれたる客が無暗にノッノッ其中よはいり込む等の事ハ日本の昔より來の仕來りでも許さぬ事です。況して近頃西洋より入り來りたる風習ある夜會よ於てハ、人々皆禮義を正しふすべきのよ、前よ申したるようハ不行儀千万の事がありましてハ、實よ恥しい事でございます。是位の事ハ別よ學ば

ずとも知れた事ですのよ、之をも恥とすることを知らぬ人も世の中ハあるものと見なします。近頃西洋風の舞踏會がはやり出しまして、自分がしたこともあつて之を惡しさまよいふ人もありますが、私ハ西洋流の舞踏ハ決して悪いものでハあつて存じます。此舞踏に就いてハ西洋ハ惡き習慣がかりまして、夜明か志、踊る杯の事も其一つにて、是ハ健康の爲めにも甚だ悪いことですが、日本よはまだ左様な弊はあつたさうです。私ハ舞踏に伴ふ所の惡弊は固より好みませんが、舞踏ハよい事と心得て居ります。私の經驗よ由てみるよ、舞踏ハ婦人方の爲めに甚だ宜しい運動です。又是迄男子との勿論、相互の間にも交際の少かつた婦人方の舞踏會のある爲めに面白い樂い交際を始めてより、人と對話することも易く工合よく出来るようよあり、又人の前よ出た時ハちかんでおかしな振舞を爲すこともあつたさうよありましたと思ひます。又男子ハ餘程以前より洋服を着て居りましたか婦人ハ近頃迄洋服を用ひあつたが、舞踏を試みる婦人方ハ逸早く洋服を着るようよ成りました、之

も甚だ宜しいこと、思ひます。全体日本の女服のよい所も中々ありませんが、歩行其他運動にハ甚不便なもので、且つ其外にも不都合な所がありますので、いつか之を止めるとか改良するとかせねばならぬと世人がいひますが、あまじひに之を改良するとも中々充分な事ハ出来ませぬまい、矢張男子のようハ西洋服を用ふる方が餘程宜しいでございます。又舞蹈ハ西洋にてハ交際上の一つの道具ハあつて居ります。夜會杯にて男女の多く打雜りまする時ハ舞蹈の催しのあるもの故、日本が萬事西洋風とありまするハ止どめようとしても止まるものでハございませぬから、交際の仕方ハ追々西洋風にあるのハ勿論ゆゑ、今の若い婦人方ハ之を多少れ心得あさる方が宜しいと思ひます。又蹈舞ハ体の形とよくいたします。是迄日本の婦人ハ成るだけ胸と腰とをかめて小足ハチヨコチヨコと歩くことを務めたように見えますが、舞蹈を始めた婦人方ハ体を真直よとしてしつかりと歩くやうに成りました。又舞蹈ハ西洋流の音楽ハ依つて運動するもの故、樂みの多きものです。人間ハ樂みと申すものハ必要ですから、此

点より見るも舞蹈ハ宜しいものです。斯様に舞蹈ハ宜しいものですが、若い婦人方が無暗に舞蹈會に行かれてハ宜敷くありません。若し舞蹈會ハ行くならば其集會する人ハどういふ種類の人なるやを能く聞定めて、慥かなる人のみ來るといふ事が分つたなら、行いても宜しいと思ひます。且又夜分なれば別して慥かなる人と同道することが必要でございませぬ。男子と申すものは少し位悪い評判を受けましても、取り返しの出來るものですが、婦人方が一たび悪い評判を受けますと、一生取り返しの出來ぬものですから、交際上ハ注意の上よも注意しおければありません。又男女に係らず世の中には人の悪いものがありまして、並はづれた事をする婦人を見ると、其前では感心だのほらいたのと云つて譽めますが、後へ廻つて舌と出して居るものも往々ありますから婦人方は注意しおければありません。舞蹈會杯にては別けても西洋の行儀作法即ち仕來りを心得て居ることが大切でございませぬ。西洋にもて婦人社會にては仕來りのやうなもの、淑女たるものは上品の集會であければ足を踏み入れて

はあらぬとか夜分の集會よは必ず耽としたる人と同道するとかいふ事の類が色々ありまして、此邊の事に就て細い事ハ當學校に教師があることあれば、今私が申述べずとも宜しい事です。且つ又私の婦人社會の仕來りの事ハ日本西洋を論ぜず不案内ですから、あまた方に向つて申述べますことハ出來ません。一二年の内ハあまた方ハ人と應接するに如何して適當あるや、夜會に如何ある服を着してよきや、ヂンテルに如何ある舉動を適當とするや、此他社會百般の善き習ハせとお承知にある事でありませう。尤も既にお承知の方もありませう。一儲社會に仕來りといふ事がありまして、淑女紳士の之に依て交際上行儀の紊れざるようよすると申す事を長々しく申述べましたが、世の仕來りの必ずしも皆善いといふ譯ハございません。日本の昔しよりの仕來りも今日よに至りましてハ宜しくあいかから止めよつたものも澤山あります。宜しくあくても今日迄續いて居るものもありません。例へば武士と云ふものハ素町人士百姓を長い刀で切り捨てよしてもよいとか。男子ハ其妻を殆ど下婢の如くに

取扱つてもよいとかいふ如きハ宜しくあいか仕來りです。西洋の仕來りでも、人が數々言ふ所ですが、婦人がコルセットを餘り堅くしめるとか、耳穴をあけて耳環をはめるとかハふことハ餘りよきことと云へません。今申したより事ハ其宜しくあいのハ忽ち分かる事ですが、此外能く考へてみなければ其善し悪しの分からぬ事もありません。併しあつたらん人の本心に問ふて見て、是れがなければ不行儀な事が出來たらうとか、一家が治まるまゝとの、社會の秩序が紊れるだらふとか思ふ所の仕來りの容易に破つてハあらぬものでございます。そして善き仕來りの日本でも西洋でも同様のものが澤山です。例へば子たるものハ親を大切にしなければならぬとか、弟子たるものハ師匠を敬まらなければならぬとか。人の悪口を云つてハあらぬとか、無闇に衣服杯を飾つてハあらぬとか、其外いくらでもあります。併し西洋と日本との衣食住の事、交際の仕方、宗旨の事杯は違つて居つたので、其等の事に至ると仕來りの違つて居る事が多くありますが、之とても能く其精神を考へてみると、違ひハ案外よ少あいなものです。」

あまた方が世學校へ卒業なさる頃には、色々の學問藝術を學ばれて天晴の婦人にならるゝでございませう。併しあがら天晴の婦人よ成つたから、婦人社會の仕來りの如き小さき事に構はあくてもよいと申されません。若し之に構はずして勝手次第な事をいたして、男子同様に或は玉突きをするとか、或は烟草を吹かすとか、或は角力をとるとか、或はツボンを穿いて走り廻るとかいふ事ハ勿論さらぬとも。優美ある女子の習はせよ背いた事をし、人から指をさゝるゝでせう。其れ故に私のあまた方に望む所のあまた方が如何ある賢婦人であるとも、能ある鷹ハ爪をかくすといふ諺に従ひ、成る丈平世の言行ハ内場を旨として、優美温良ある女子の仕來り即ち習はせを守つて、能く交はれば尙更の事、鳥渡見ても優美ある婦人よ相違ふいと人に思はるゝ様よせられん事でおごいます。

斯様に申述べますと、あまた方の私が何やらやかましい事を述べ立つると思はるゝ、かも知れませんが、私の左様な考へはございません。私はあまた方がお樂みの

多い事を偏へよ望むものでございませう。私は自分ではまだ若いと思つて居りますが、あまた方の目から見れば年寄でせう。併し若い時分の五六年の間亞米利加に行つて居つた事もありまして、其時よのあまた方のようあ若い婦人方とも交はつた事もありまして、今に其時の樂みの忘れません。彼の國にてハ交際上の仕來りがチャンと極つて居りますが、又其極りを越さる限りの随分自由がありまして、若い男子が若い婦人を訪ふて互に談話する事もあり、かるた杯を弄びますこともあり、又一緒よ音樂會杯に行く事もあり、又一緒よ馬車で遊山よ出掛くる事もあります。私の如き東洋の端から來て居つたものでも、短かく云つてみれば東洋の旅鴉でも、聡としたるものと認められたかどうだか知りませんが、お嬢さま方との交際も出来るようお社會の仕組ですから、樂みにあることも多くありました。併し日本よてハ急に亞利米加の通りよ男女の交際を自由にしたならば、或ハ弊が起るのぞ知れません。日本の社會の有様が追々よ進んで参りまして、若い男も若い女も文明社會の善き仕來りが心

にしみ込んで仕舞った後に、亞米利加の通りでも差支
 へおさいますまいが、今日でいちど覺束ないと思ひます。
 尤も日本にてもあな方を始めとし、文明の女子も文明
 の男子もありますすけれども、其れは甚だ少數ですから、中
 々心をゆるす譯にへ参りません。

去りながら私はあな方よ何でも窮屈よして居られよと
 申す譯でへございませぬ。私とても芝居を見に行きまし
 たり、又芝居の批評と雜誌杯よ書いて送る事もあります、
 又義太夫を聞きよ行く事もありますから、あな方よ向
 ツても斯様なものを見たり聞いたりする事ハ一切悪い杯
 と昔し流の堅氣侍ひのようお事ハ申しませぬ。私の主義
 ハ人間よハ樂みがあくてハあらぬと申すことですから、
 私が當學校の和樂會に來まするのも、あな方に下手お
 がらも西洋流の舞蹈を傳へ申さう杯と高慢お考へで來
 るのでハありませぬ、あな方の爲めよ自分の樂みを得
 又之ハ私の口から云ツてハおかしいかも知れませぬが、あ
 な方のお樂みも増さうかと思ひますから來るのです、
 私の少々學問をいたそのも學問が樂みだからいたすので

す、苦がいくるしいいやお事ハ大嫌ひでせ。自分が左様で
 すから、あな方もお樂みの多い事をひたすら望みます。
 若い時ハ二度ハありせせん、尤も年とツた時ハ二度ハあ
 りませぬが、併し若い時よハ身体も精神も活潑で面白い
 こと樂いことが澤山出來るものですから、充分にハ樂み
 おさるよ越した事ハございませぬ。年とツて若い時の事
 を考まよと實よ慕ハしくあるものです。さりとして無闇お
 事ハいけませぬ。樂みの間よも淑女たるの資格を失おは
 さいようよ氣を付けおければありません。優美お婦人
 社會の仕來りをば守らおければありません。之を守らお
 いと年とツて後悔する事も往々あります。そして又教育
 を受けて心の優しい婦人ハ此仕來りを守ツても決して苦
 におあるものでハありません。是ハ固よりあな方の能く
 お存じの事です。無理お事ハ永く世の中に行ハる、もの
 でハおからうと思ひます。

以上の甚だ面白くお話ではありましたが、近頃思ひ
 付ました事ですから申述べました。若し此後よ復あな
 方にハ話をする好き折と得ましたならば、其時こそ之

よりも十倍も二十倍も面白い事を申さうと思つて居り
ますが、是も不肖の私故出来るか出来ぬか知れませんが、
私の望みの先づな様でございす。あなた方へさぞお迷
惑でしたらう、其邊へ平にお容赦を願ひます。

明治二十年一月十五日地震ノ記

關 谷 清 景

編者曰ク本編ハ去ル二月廿八日日本地震學會ニ於テ
關谷理科大學教授ノ英語ニテ演說セラレシ概要ナリ
當日演說ノ席ヘハ英國公使プラシケット米國公使ハ
ツバート渡邊大學總長ノ諸公并ニ内外ノ學士外國婦
人等數十名臨マレ甚盛會ナリシ

本年一月十五日午後六時五十二分ニ發セシ地震ハ近年ノ
強震コソ西ハ美濃伊勢北ハ陸前各々八十里ノ地ニ波及シ
西北ハ越後越中ノ境ヲ越ヘ總面積五千三百六十四方里ヲ
震盪セリ(地理局報告)但シ此ノ如キ地震ハ日本ニハ大概
毎年一度ツ、アルト云フモ決シテ大言ニハアラス又東京
近邊ノミニテモ三四年目ニ一度ツ、之ト同様ノ強震アリ

去ル明治十三年二月二十二日ニ今回ヨリモ稍劇烈ナル地
震アリ東京横濱ニ於テハ土藏ノ壁土チ震ヒ落トシ煉瓦壁
ニ烈罅チ生シ烟筒破損シ或ハ落チシモノアリ家屋ノ損害
ハ今回ヨリモ餘程多カリシ(地震學會和文并英文報告第
一卷ミルン氏論文ヲ見ルベシ)又明治十七年十月十五
日ノ夜ニ強震リ震動面積ハ此度ト殆ント同様ナリシカ
東京ニテハ横濱ヨリモ強ク感シ又破損ノアリシコトモ多カ
リシ上野ノ博物館ノ煉瓦壁ニ裂罅ヲ生シ同館内ノ陳列品
并ニ「ガラス」障子夥多シク痛ニ各所ノ烟筒落チ商品ニ破
損等アリ(地震學會和文報告第三卷小生ノ論文御一覽ヲ
乞フ)然ルニ十三年并ニ十七年ニ地震ノ起リシ處ハ東京
灣内ニテ府下ヨリハ遠カラサル海底下ニアリシモ此度ノ地
震ハ下ニ述ル如ク相摸ノ國ヨリ起リシ故ニ東京ニ於テハ
前二震ノ如ク強ク感セサリシ故ナリ

明治十五年十月十五日(?)北海道根室ニ劇震アリ地破レ
商品ニ損失アリ全十八年十月三日ニ陸中ヲ中心トシテ
北海道ヨリ關八州迄波及セシ強震アリ又昨年七月二十三
日ニハ信濃越後地方ニ劇震アリテ信州野澤ノ温泉ニ閉塞

セシモノアリ其他山麓道路ニ地破レヲ生シ土藏家屋ノ倒覆
傾斜セシモノアリ左レハ日本全國ヲ通スレハ一年ニ一度
位ハ今回ノ如キ強震アル割合ナリ

東京ニ於テ今回ノ地震ニ地ノ最多ク動キタル處ニテハ横
ニ七分(曲尺)上下ニ一分五厘ニシテ二秒半毎ニ往復動搖
セリ是レ寧ロ緩慢ナル動キ方ナリ而テ六十余回ノ著シキ
震動アリ其時間ハ二分餘ニ涉リ路上ニ歩行スル者ハ身体
ノ動搖スルヲ感シ什器物品ノ位地ニ依リテハ墜落轉倒セ
ルモ家屋ノ破損スル程ノ強震ニハアラサリシ

横濱ニ於テハ地ノ動ク一吋二分ヨリ少カラス斯クテ同
港殊ニ相摸國鎌倉、愛甲、大住ノ諸郡ハ震力頗ル烈シク多
少家屋ニ損害アリトノ報告アリ小生ハ帝國大學ヨリ右地
方ヲ巡回スベキ命ヲ蒙リシニ付先ツ横濱ニ至リ損害ヲ受
ケシ家屋ノ圖ヲ寫スニ從事セリ此等ノ圖ハ追テ帝國大
學紀要ニ出版セラレ、ベシ其ヨリ相摸諸郡ニ旅行シ地震
ノ源因震源ノ地等ヲ視察セリ左ニ其概要ヲ述ブ

震源ノ地并ニ地震ノ原因

震源ノ地ハ相摸國及ヒ武藏國久良岐郡ヲ西ヨリ東ニ横キリ

タル延長一帯ノ地ニアリ其里程十三里ニ下ラス即チ西ノ
方相摸國上足柄郡寄村ヨリ淺間山ヲ越エ三廻部村ニ至リ
大住郡曾屋村ヨリ善波峠ヲ經テ大山ノ麓ナル伊勢原、上
谷下谷、諸村ニ亘リ愛甲郡厚木及ヒ其近傍ヲ震盪シ高坐
郡用田、高坐ノ諸村ヨリ鎌倉郡戸塚驛ヲ串キ延キテ横濱
及ヒ其近傍ヨリ海灣ニ入リテ其跡ヲ藏ム左ニ掲クル地圖
ニ彩色シタルハ強震ノ地ナリ此一帯ノ地ニハ土藏及ヒ家
屋ノ破損セルモノアリ又道路、土手、石垣ヲ崩壞シ商品壁
紙、戸障子、什器ヲ毀損シ或ハ井水湧出ノ量ニ増減ヲ起セ
シモノアリ東ヨリ西ニ亘ル一帯ノ地ハ其損害斯ノ如クナ
リト雖南ヨリ北ニ至リテハ其境界甚ク狹ク半里乃至一二
里ノ處ニ至レハ震動著シク減少スルヲ見ル現ニ此一帯ノ
地ト殆ト平行スル東海道中湯本、小田原、大磯、平塚、藤澤
ノ諸驛及ヒ鎌倉、江島金澤等ノ地ハ損害ヲ受クルヲナシ
如何ナル大地震ニテモ家屋人命ヲ毀傷スルニ至ルノ區域
ハ甚ク狹キヲ常トス彼ノ有名ナル安政ノ大地震ニ災害ノ
多カリシハ江戸近傍ニ止マリ又昨年来國チヤールレストンニ
發シ百万英方里ニ波及セシ大震モ家屋ノ損害等アリシハ

同寄近傍數十英里ニ止マリシト云フ然ルニ今回ノ地震ノ

同質ナル供積層ナレハ若シ前ニ記スル如ク震源ハ此等一

同府近傍數十英里ニ止マリシト云フ然ルニ今回ノ地震ノ如キハ固ヨリ前記ニ震ニ比スルニ足ラサルモ其震動ノ強カリシ區域ハ較廣シト謂フヘシ

地震ノ主要ナル原因ニアリ第一火山爆發、第二地中ニ空洞ヲ生シ地層ノ陷落スルニ由リ地動ヲ生スルモノ、第三地中ニ於テ地層崩壊シ或ハ段落裂罅等ヲ生スルモノ是ナリ然ルニ今回ノ地震ニ在リテハ地震前別ニ火山ニ活動ヲ増シ温泉ノ温度ニ變動アルヲ見ニ且前ニ陳フル如ク最モ強ク震動ヲ受ケシ土地ハ十三里ニ亘リ殆ト直線ニ沿ヒタル地方ニアリシカ故ニ今回地震ノ原因ハ地下ニ細長キ裂罅ヲ生シタルナラント信スルナリ

震源ノ地ト其地方トノ地質ニ關係アリヤ否ヲ調査センカタメ地質局ニテ製セラレシ地質圖ヲ閱スルニ震動ノ最モ烈シカリシ厚木地方ハ沖積層、曾屋、伊勢原地方ハ洪積層アルビヤム、テルシヤリ

(共ニ第四紀)大山、第三紀、丹澤山ハ尙ホ古代ナル岩石ヨリ成リ其邊ノ地質組織ハ隨分錯雜ナルヲ以テ此等異質ノ岩石相接スル所ニ於テ地中ニ斷層崩壊ヲ生スルハ怪ムニ足ラサルナリ然ルニ厚木以東戸塚、横濱ニ亘ル一帯ノ地ハ

同質ナル洪積層ナレハ若シ前ニ記スル如ク震源ハ此等一帯ノ地ヲ串通スルモノトナスニ於テハ地質上ノ關係ニ就キテハ稍ヤ其説明ニ苦ムヘキナリ地形ニ就キテ言フモ此ト同様ノ難題ニ遇フノ思アリ曾屋、伊勢原、厚木等ノ地ハ其北並ニ西ニ當リテ山嶽アリ概シテ南ニ開キ海ニ達ス然レハ此等ノ地ハ山嶽ト平地トノ境ニ在リ即チ陸地ノ重量一方ニ重クシテ一方ニ輕ク地層ニ破壊ヲ起シ易キ處ナレハ震源ノ地ト爲ルヘキナリ然ルニ厚木以東戸塚横濱ニ達スル地方前ノ如クハ著シキ地形上ノ變化アルヲナシ此事ニ付高説アラハ教示アラントチ乞フ

又丹澤山中震力ノ景況ノ報知アリタキ旨チ大住郡東田原村ノ戸長ニ依頼セシニ返答ヲ送ラル其畧ニ曰ク震力ハ山麓部落ニ比スレハ遠ク劣リ山中惣テ無事ナリ其山心ハ岩石ニテ塊一ヲナシタルヲ以テ震動ノ少キニ由ルモノナラシ云々

今回ノ地震ニ道路又ハ土手山腹等裂罅ヲ生シタル箇所甚タ多ク尙ホ前ニ云フ如ク地震ノ原因タル地中ニ裂罅ヲ生セシニ因ルナルヘシト雖或土地ハ其近傍ノ地ヨリ隆起或

ハ沈降セシモノアルヲ見ス但シ激烈ナル地震ニハ必スシ
モ地ノ隆起沈降ヲ現ハスニ限ラス彼ノ安政二年江戸ノ大
地震及ヒ昨年チャールレストンノ大地震ニハ無數ノ家屋轉
倒崩壞セシ程ノ激震ナリシモ地面ニハ著ルシキ變化ナカ
リシナリ

損害

損害ノ最モ甚ダシカリシハ土藏ナリ本邦ノ土藏ハ木ヲ以
テ其柱梁ヲ組ミ之ニ三四寸乃至五六寸ノ厚サニ土ヲ塗リ
テ外壁ヲ造リタルモノニシテ其土ハ元來粘着力ニ乏シク
毀損シ易キニ因リテナリ震動ノ最モ強カリシ三廻部、善
波、曾屋、伊勢原、厚木、用田、戸塚等ニハ土藏ノ壁十中六
七迄ハ多少ノ龜裂ヲ生シ又鉢巻、腰巻、壁土等ヲ落セシモ
ノ甚ク多ク土臺石ノ繼目ニ虛隙ヲ生シ或ハ破壊セシモノ
往々アリ

前記ノ各地ニ於テハ木造家屋ノ震動甚ダシク戸障子ハ往
々外ツレ或ハ其骨、弓ノ如ク彎曲シタルモノアリ又其紙
ハ一小間毎ニ破レタルモノアリ加之棚上ノ器物墜墮シ什
器ノ顛倒セル家アリ斯ルニハ家屋餘程劇シキ震動ヲ受

ケタルナラン其後ニ殘リタル證跡ハ家屋全體ニ傾キ戸障
子ノ開閉ヲ妨クルニ至リシテ梁桁ノ組合セ緩ミ或ハ口ヲ
開キタル等ナリ而シテ貧民ノ住スル家屋中ニハ廢頽シ
テ將サニ顛倒セントセルモノアリ然レモ地震ノ爲ニ覆ヘ
リシモノアルヲ見ス

横濱ニ於テ各種家屋ノ損害ヲ視察セシニ石造ノ家屋倉庫
等ニ於テ最モ多ク破損ヲ受ケシヲ發見セリ但シ此ニ石造
ト稱スルモノハ木材ヲ以テ骨組トナシ其周圍ニ厚五寸長
サ二尺七寸巾八寸ノ伊豆石ヲ一重並ニ積ミ立テ一箇ノ
石ニ付キ三分四角長サ四寸程ノ鑢ノ蟻カスガイ蟻三本ヲ以テ木
材ニ結付ケ以テ外壁トナシタル者ナリ此種ノ住家五箇所
倉庫七箇所ニ大破アリ或ハ外壁ノ石、材木ヨリ離レ落下
セルモノアリ是ハ石ヲ木材ニ緊束スル蟻蟻絆ノ歳チ經テ
鏽腐シ僅カノ震動ヲ受クルモ容易ニ折レ其用ヲ失フニ依
ル又石質ノ柔軟ナルヲ以テ破壊シ若クハ其繼目ニ填充ス
ル一セメントノ質並ニ填充方不良ナルヨリ石壁ニ危嶮ナル
ヲ裂罅ヲ生セルモノアリ以上破損セシ石造ノ家屋倉庫ハ
概子低價ヲ主トセル粗造ノモノニシテ素ヨリ造家ノ法則

ニ適セサルノミナラズ之ニ用フル伊豆石モ甚ク柔軟惡質

リシ如キ強震アラシメハ其木造家屋ニハ甚ク破損ナ

ニ適セサルノミナラズ之ニ用フル伊豆石モ甚タ柔軟性質ノ材料タルヲ免レサルヲ以テ茲ニ掲グルモノニ就キ一般石造家屋ノ標準トナシテ論スル能ハサルヤ言ヲ待タズ現ニ神奈川縣廳其他ノ堅牢ナル石造家屋ニハ僅少ノ影響ヲモ見ルヲナカリシナリ

煉瓦造ノ家ニ著ルキ裂罅ヲ生セシモノ二戸アリ是ハ木骨ヲ入レス一軒ハ煉瓦二枚半其他ハ一枚半ノ厚サニテ積立テタル平家造ノ純粹煉瓦家ナリ共ニ家ノ角隅窓並ニ出入口ノ周圍ニアル煉瓦ニ裂罅ヲ生シ甚タ危嶮ナル狀ヲ示セリ
 横濱ニ於テ木造ノ家ニハ壁ノ落チタルモノ數箇所アリ其他著ルキ破損アリシヲ見ス土藏ノ壁ノ大破セシモノ三箇所其小破セシモノ數箇所アリ今其破損ノ多少ト其他ノ事ヲ以テ横濱ト各地トヲ對照シ假リニ震力ノ強弱ヲ比較セシニ横濱チ一トスレハ震動ノ最モ強カリシ戸塚、厚木、曾屋ハ少ナクモ三チ以テ示スヲ得ヘシ即チ横濱ヨリハ三倍強キナリ而シテ此等ノ地ニ於テ木造ノ家ニハ甚タシキ破損アリシヲ見ス故ニ設シ横濱ヲシテ前記各地ニ於テア

リシ如キ強震アラシメハ其木造家屋ニハ甚タシキ破損ナキモ煉瓦石造ノ家屋ニハ今回ヨリ尙ホ三倍ノ損害アルヘキ理ナリ又烟筒ノ墜落スルヲモ一層劇シカルヘキナリ故ニ今横濱ニ存在スルモノニ就キテ言フキハ木造ノ家ハ煉瓦又ハ石造家屋ニ比較シテ破損ノ少キヲ望ムヘキナリ

日本風ノ家屋ノ構造タル強弱ノ點ヨリ言フキハ改良ヲ要スルヲ殊ニ多シ元來日本風ノ構造ハ互ニ押ス力ニ抵抗スル桁梁ノ多キモ相繫連スル繫材ニ乏シク彼ノ楔クサヒヲ以テ關節チ堅ムル法ト雖未ダ十分ナリト謂フヘカラス故ニ地震其他ノ力ノ爲ニ震盪サル、キハ柱ト桁梁トノ關節緩ミ易ク桁梁ハ柱ヨリ拔出ルヲアリ若シ震動ヲ受クルヲ永ケレハ終ニ顛倒スルニ至ルヘキナリ
 蓋シ地震ノタメ最モ安全ナル家屋ヲ建テント欲セハ鐵柱鐵板ヲ以テ構造スルニ若クハナシ然レモ是恐ラクハ言フヘクシテ行レサルノ論ナラン故ニ縱令鐵柱鐵板ヲ用ササルモ目下行ハル、木造ノ建築ニ多ク鐵材ヲ用サニ關節ヲ堅メ又柱桁梁ノ間ニ長短ノ「ボールド」ヲ貫キ以テ相繫連束縛セハ必ス甚タ安全ノ家屋ヲ建設シ得ラルヘシ若シ美術

又ハ習慣ノ點ヨリシ鐵ヲ見ルヲ嫌フヲアラフニハ壁ヲ以テ之ヲ覆ヒ或ハ木材ニテ隱蔽シ外部ニ露出スルヲ防グヲモ亦固ヨリ難カラサルヘシ

以上ニ述ヘタル日本風構造ノ關節ヲ改造スルヲ木材ノ強弱ヲ計算シテ其配リ方ヲ適當ニスルヲ等ハ最モ緊要ニシテ是等ハ造家専門ノ士研究ニ依リテ成就スルヲ得ヘキナリ已ニ本邦ニテ近來構造セシ木造ノ西洋風家屋ニハ學理ヲ應用シ建築シタルモノアリ尙ホ廣ク一般家屋ノ構造ニモ此等改良ノ普及セノヲ希フナリ

南亞米利加ノ西海岸ニハ我國ノ如ク震災多キ地アリ工科大学教授ジヨン、ミルン氏ノ著書ニ曰グヤキルニアル家屋ハ石、煉瓦ヲ以テ築キタルモノ數多ナリト雖最モ普通ナル材料ハ此地方ニ生植スル巨大ナル竹ナリ是レ最モ善ク地震動ニ堪フルヲ以ナリ

伊太利國イスキヤ島ニ數年前大震アリ家屋ノ倒レタルモノ夥多シク人命ヲ損フ者二千八ニ餘レリ其後伊太利政府ヨリ委員ヲ同地ニ派遣シ市街再築ノ目論見ヲ報告セシム其報告書ヲ見ルニ同島ニ適スル家ハ木造タルベキヲ説キ

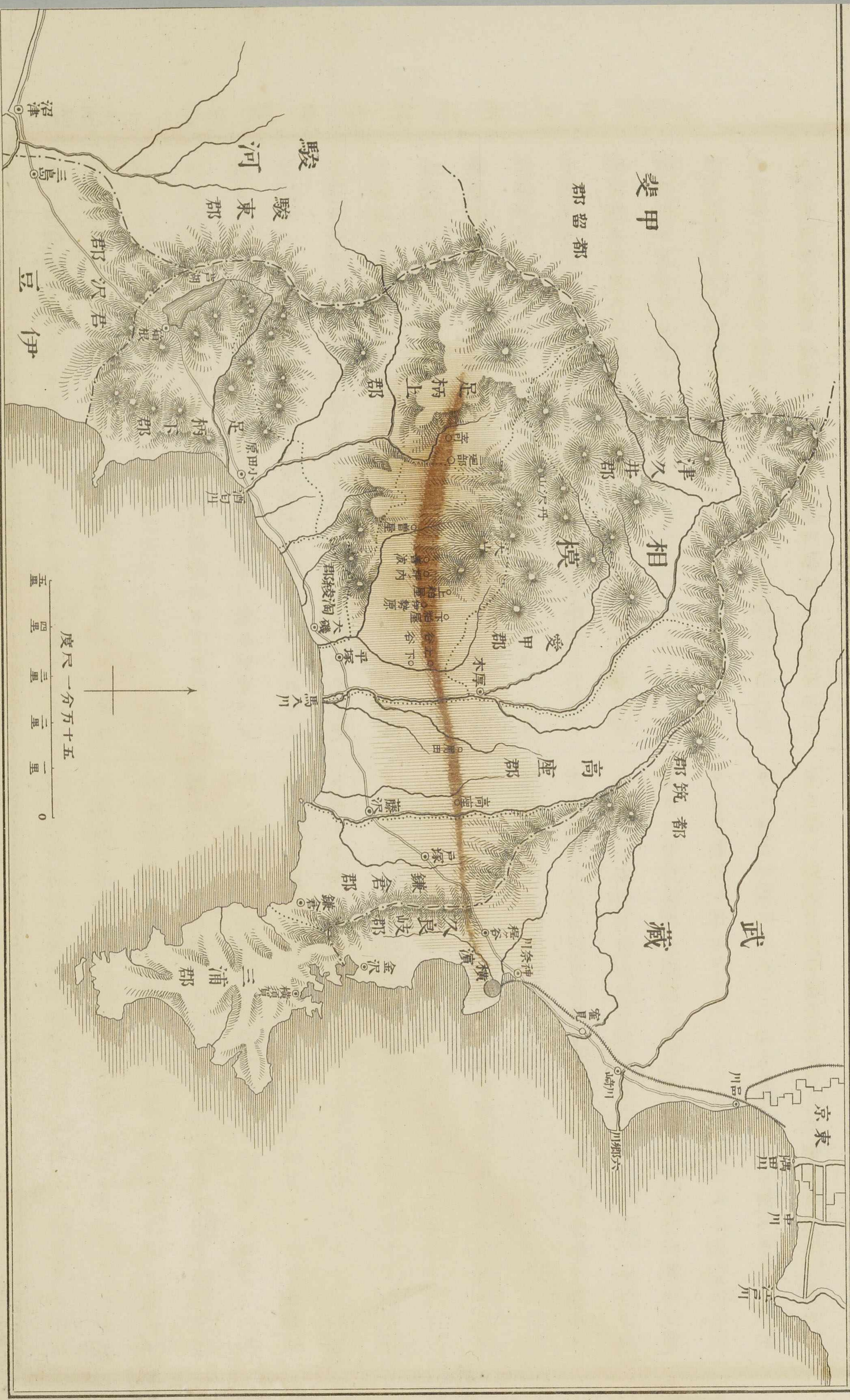
又別項ニ家ノ骨ヲ木又ハ鉄ニテ堅固ニ組立テ石煉瓦ヲ以テ其間ヲ填充スヘキヲ勸告(其他有益ノ事項アレモ長文ニ付茲ニ畧ス)セリ呂宗島マニラ府モ古ヨリ屢々震災ニ罹レリ同府ニ在住スル人ニシテ前文伊太利委員ト畧同様ノヲ言フモノアリ

去ル明治十九年八月三十一日米國チャールストン大地震ニ際シ家屋ノ損害ヲ被ルヲ多シカリカ其報告書中ニ曰ク木造ノ家ハ煉瓦又ハ石造ノ家屋ヨリ損害ヲ被ルヲ迥カニ少ナカリキ然レモ木造ノ家内ニアル什器物品ハ甚ダシク破損セリ是レ木造家ハ動搖ヲ受クルヲ多キニ由ル云々ト

以上論スル所ニ就キテ之ヲ見レハ地震ノ一點ヨリ言フキハ木造ノ家ハ煉瓦又ハ石造ノ家屋ニ比シテ勝レルモノト謂フヘキナリ然レモ諸々他ノ利益殊ニ火災ノ一點ヨリ見ルキハ將來ノ建築ニハ廣ク石、煉瓦ヲ用フルノ得策タルヘキハ言テ待タズ左レハ今後本邦ノ建築ニ就キテ研究スヘキハ石、煉瓦ヲ以テ震動ニ堪フヘキ家屋ヲ造ルノ方法ヲ研究セサルベカラス彼伊太利ハ地震ヲ以テ有名ナル國ナ

武藏國... 震地... 治明... 國...

圖震地日五十月一年十二治明



ルカ家屋建築ノ材料ニハ多ク石、煉瓦ヲ用ユ而テ鉄棒ヲ壁

アリ又之ニ反シテ烟筒ハ無事ナルモ之ト相接スル瓦壁ヲ

ルカ家屋建築ノ材料ニハ多ク石、煉瓦ヲ用ユ而テ鉄棒ヲ壁ノ縦横ニ張り家ノ各部ニ結付ケ震動ニ抵抗スルヲ目的トシテ建タル家アリ又米國カンフロンシスコ我東京横濱ニ於テモ稍々之ト同様ノ法ヲ以テ築造シタル煉瓦屋アリ

烟筒ノ破損 横濱ニ於テ今回ノ地震ニ著ルク人ノ目ニ付キシモノハ烟筒ノ墜落及ヒ毀損ノ一事ナリ地震ノ後小生ヨリ同港居留ノ外國人ニ書ヲ寄セ家屋損害ノ摸樣ヲ尋問セル返書ト神奈川縣警察署ニテ調査セラレシ震災錄及ヒ小生實視セシ所トヲ合算スレハ毀損若クハ墜落セシ烟筒ノ數五十三ナリ就中其一箇所ニ於テハ方三尺高サ五尺ノモノ屋脊ニ接スル所ヨリ折レ屋脊ヲ貫キ厚サ一尺巾七寸アル二階ノ梁材ヲ挫キ尙ホ地上ノ床板ヲ破折セリ其危險ナルヲ恐ルヘキナリ其他墜落ノ家屋ニ小破ヲ及ホセシモノ數箇所アリ但シ尋常ノ烟筒ハ皆家ノ土臺ヨリ煉瓦ニテ積立テ屋脊ノ上ニ三尺乃至五尺位突出シ頂上ニハ修飾ノ目的ヲ以テ倒マニ段階ヲ刻ミ頭首ヲ偏重ナラシム加之平日雨雪烟熱ニ侵サレ其質脆弱トナルモノ少ナカラス其毀損セルモノヲ見ルニ多クハ屋脊ト接スル所ニ

アリ又之ニ反シテ烟筒ハ無事ナルモ之ト相接スル瓦壁ヲ落ス等ノコトアリ是レ烟筒ト家屋ト其震動ノ度ヲ異ニシ甲ハ一方ニ動カントシテ乙ハ他方ニ向ヒ激抗スルニ由ルナリミルン氏ハ烟筒ヲシテ屋脊並ニ家屋ノ各部ト觸レサル様建築スヘキヲ論シ又頂上ヲ修飾スル煉瓦ヲ除キ低クシテ壁ノ厚キ烟筒ヲ造ルカ若クハ屋脊ノ上ニ突出スル部分ノミニニテモ鉄板ヲ以テ構造セハ大ニ危険ヲ減スヘキ由ヲ説ケリ但シ鐵板ヲ用フルモ火災其他ノ故障ニ應スルノ方法ニ其説アレト事冗長ニ涉ルヲ以テ茲ニ略ス

地質地形ニ由リテ震動ニ多少アリ從テ家屋損害ニ關係ヲ及ホス

凡柔軟ノ地ハ堅硬ノ地ヨリ震動多キヲ常トス理科大學ニ於テ地震計ヲ本郷理科大學構内及ヒ神田一ツ橋外第一高等中學校ニ備ヘ斷エス地震ヲ驗測スルニ本郷ノ地ハ乾燥ニシ且堅硬ナルカ故ニ柔軟濕地ナル神田一ツ橋外ニ於ケルヨリモ震動毎ニ少ナク其比例ハ大約一ト二ヨリ一ト三トノ間ニアリ現ニ今回ノ地震ニ於テ一ツ橋ニ在リテハ

七分(曲尺)ノ地動ナリシモ本郷ニ於テハ二分六厘(曲尺)

ニ過キス小生巡回中ニモ硬柔異質ノ地ノ家屋相接近セル

モノニ於テ其損害等ニ著ルキ相違アルヲ見タリ例ヘハ戶

塚驛ハ山腹ニ沿ヒタル一帯ノ街道ナリ片側ノ家ハ概子丘

陵ニ沿ヒ岩石ノ上ニ建テタルヲ以テ損害割合ニ少ナク之

ニ對スル片側ノ家ハ多ク柔軟ノ地又ハ埋地ニアルヲ以テ

家屋土藏ノ損害殊ニ多カリキ咫尺ノ間ニ在リテ斯ク大差

アルハ特ニ注目スヘキ事ナリ又今回震災ノ最モ多カリシ

大住郡厚木、上谷、下谷ノ諸村ハ平坦柔軟ノ地ニアリ

斷崖ノ上、山或ハ丘陵ノ端崖又ハ尖頭等ノ部分ハ震動殊ニ

甚タシク從ヒテ此等ノ地ニ建築シタル家屋ハ損害ヲ受ク

ルヲ最モ多カリキ前ニ云フ如ク横濱山手居留地所在ノ家

屋ニ烟筒ノ破壊墜落セシモノ殊ニ多カリシハ此等ノ位地

ニ建設シタル家屋少ナカラサルカ故ナリ

地破レノ事

地破レノ有リシハ山腹ニ沿ヒタル道路斷崖、土手等ニ最

モ多シ此等ハ皆最モ破壊シ易キ位置ニ在ルモノナリ而シ

テ震動ノ強カリシ地ニハ多少此等ノ地破レアラサルハナ

シ孰中大住郡伊勢原ヨリ曾屋村ニ亘リ上足柄郡三廻部村

ヲ經テ寄村ニ至ル道路及ヒ山中ニ最モ多クシテ之ヲ通行

スルニ當リテ大小ノ地破レヲ目撃スルヲ總テ七十二箇所

ノ多キニ及ヒ其中最モ大ナルモノハ長サ一町半幅一尺深

サ二三尺ニ至ルモノアリ而シテ其地破レノ方向概東西ニ

向フ即チ小生カ地震ノ原因ナリト信スル地中ノ裂罅ノ方

向ト並行セルモノ、如シ是レ一ニハ此地方ノ山岳ハ大概

北ヨリ南ニ向ヒテ傾斜シ隨ヒテ北ヨリ南ニ向フ山坂斷崖

等多キト又小生ハ主トシテ地震ノ地ニ沿ヒ東西ニ旅行セ

シヲ以テ多ク東西ノ地破レヲ目撃セシトニ由ル

平地ニ於テハ曾テ地破レヲ見ルヲナシ何トナレハ平地ニ

地破レスルモ直ニ原位ニ復シテ其破口ヲ緘スルヲ以テ震

後之ヲ見ルニ至ラサルコ由ルナラン

水中ノ動搖并ニ井泉ノ事

地震ハ地上ノミナラス亦水中ニ影響ヲ及ホスハ論ヲ待タ

ス大地震ニ在リテハ往々津波ヲ起シ時ニ或ハ地震ヨリハ

此津波ノ爲ニ人命財産ヲ損害スルヲ多シ今回ノ地震ニ於

テ横濱港ニ停泊セル船舶ハ往々海底ニ噉々タル音聲ノ發

スルヲ聞キ或ハ吾乘ル所ノ船他船ト衝突シタルカト驚キ

強震ノ後震リ返シアルハ常例ノ事ナリ東京ニ於テハ地震

スルヲ聞キ或ハ吾乘ル所ノ船他船ト衝突シタルカト驚キ
 テ甲板上ニ登リシモノアリト云ヒ又横須賀ニ停泊セル軍
 艦中ニハ艦體ノ動搖シタルモノアリト云フ是レ他ナシ海
 底ノ震動スルニ從ヒテ錨鏈ヲ伸縮シ又水動キテ船體ニ動
 搖ヲ傳フルニ由ルナリ

相摸川ハ震動ノタメ波ヲ起シ或渡船場ニ於テハ一時渡船
 ナ見合セシ程ナリ又花水川ノ上流ニテ丹澤山中ヨリ水源
 ナ發シニ廻部村ノ東ヲ通スル溪水ハ爲ニ濁チ生スルニ至
 ル

震動ノ強キ土地ニ於テハ釣瓶井戸ノ水ニ濁チ生シ又厚木
 地方上谷、下谷諸村ニ於テハ堀抜井戸ノ水量ニ増減チ生
 セリ但シ其量ノ減少セルモノハ増加セルモノヨリモ多カ
 リキ

地震前ノ鳴動並ニ震り返シ

地震前ニ恰モ遠雷ノ響クカ如ク或ハ車輪ノ轟クニ似タル
 音チ生シ次キテ震動シ來レリ小田原地方ノモノハ大抵之
 フ北ニ聞キ横濱近邊ノモノハ之ヲ西ニ聞ケリト云フ即チ
 震動最モ強カリシ震源ノ地ヲ指スモノ、如シ

強震ノ後震り返シアルハ常例ノ事ナリ東京ニ於テハ地震
 後間モナク一回ノ輕震アリシノミナルカ戸塚邊ニテハ三
 回震り返シ又曾屋村邊ニテハ同夜一時頃マテ總テ五回ノ
 小震アリ且何レモ鳴動ニ伴ヒ來レリト云フ又翌十六日ノ
 夜ハ東京ニ於テ二回ノ輕震アリシニ震源ニ近キ地ニテハ
 三回若クハ四回地震セリ

「ラムプ」ノ事

安政二年十月二日江戸大震ノ夜一瞬間ニ火三十餘箇所
 ニ起リ四方ヲ延燒ス其慘狀ヲ追想スレハ今尙ホ人ヲ戰
 慄セシムルニ足ル我國近來盛ニ「ラムプ」ヲ用フ府下ノミ
 ニテモ其數萬ヲ以テ數フヘシ而シテ其器ハ脆弱ナル「ガラ
 ス」ヨリ成リ石油亦極メテ火ノ移リ易キ可燃物ナリ不幸
 ニシテ復ヒ安政度ノ如キ大震アルニ遭ハ、火災ノ大ナル
 更ニ其幾倍ナルヲ知ルヘカラス左レハ目下安全ナル「ラ
 ムプ」ヲ考案製造スルハ甚タ緊要ノ事ナルヘシ巡回中間
 キシ所ニ據レハ地震ノ際「ラムプ」ノ轉覆破壊セシモノ十
 六其中「ホヤ」ノ破レシモノ十箇油入其他ノ部分ノ破レシ
 モノ六箇内一箇ハ火ヲ失シ延燒セントセシチ蓆ヲ以テ之

ヲ掩ヒ幸ニシテ消止メタリト云ヘリ
終ニ臨ミ申述度ハ小生巡回中ハ神奈川縣官、警察署員、郡
役所、戸長役場等ノ懇篤ナル幫助ヲ與ヘラレシ一事ナリ
今茲ニ謹ンテ之ヲ鳴謝ス

女學生の心得

穂積 陳重 演述

宇都宮五郎 筆記

女學生諸君 私ハ箕作君の依囑より、今日貴嬢方ハ談話
を致す順番に當りました 依て私ハ方今我邦の女學生た
らん者ハ美麗ビエーチーレエンドニスと實用即ち經濟と美術とを程よく調和し、
其割合を誤らざるの心懸か肝要じやと云ふ事をお話し申
さふと思ひます

扱此教場のストロブの中には石炭がボヤ々と燃へて居り
ます 又貴婦人方の指環にハダイヤモンドがキラキラと輝
いて居ります 扱其石炭と申す品物ハ、風致もあつ、又雅
趣もあつ石ころの如きものよて、至つて見苦しき品物
で御座ります或る田舎者が、これを黒ん坊のシヤボンか
と問ひましたも強ち無理ならぬ事と思はれます 又彼の

ダイヤモンドと申す寶石ハ誠に美しくしき品物にて、或ハ夜
會の電氣燈に五色の光彩を放ち、或ハ朝賀の貴婦人の禮
服ニ映し昔しの支那人が十五城に換へんと云ひしも實に
尤の事と思はれる位に御坐ります石炭とダイヤモンドは
、其外面より觀る時は箇程違ふ者にて、俚諺に云ふお月
様と鼈とは此事てあまりしやう 然し乍ら化學者に聞て
見ますると此二品の外見より箇程相違あれ、其實質は
同じ物よて、兩つあがら炭素とか申す元素より成立つ者
じやと申します

依て私が考へまするにイヤダモンドハ實ニ寶石の王とも稱
すべき者にて、裝飾に取りてハ之に超す者はありません
以 又石炭ハ蒸氣船、蒸氣車、瓦斯燈を始めとし、機械の
運轉、家屋の温暖、其他百般の有益の事業にてハ一日も缺
く可らざる者にして、鑛物で文明の先導者となりたる物
の中にては鉄と肩を並べ、一と云つて二と下らぬ品物お
りと思はれます 然らば、同じ炭素より出來たるダイヤ
モンドハ美麗の名代人として、石炭ハ實用の名代人とも
申すべき者でありませう 私ハ今日文明の教育を受け

る婦人方ハ、右の炭素の如くあらん事を希望いたします

る第一派は即ち美術主義の教育を主とし、外形より入り

る婦人方ハ、右の炭素の如くあらん事を希望いたしません
 尤も私はあつた方を眞つ黒としたいと望むのであり
 ません 終りまで御聞よ成りますと其意味が判然とい
 します

方今我邦にて、婦女の位地の進歩を圖りまする者共に、二
 ツの流義がありす其一派ハ専ら婦女天賦の美質を磨き
 婦人の風采嗜好を高尙にする事を勉むる流義として、此
 流義によれば詩歌文章は論を竣たずピアノやバヨリンや
 入てハ英佛獨乙の國語、出てハ舞蹈晚餐音樂會、セント、
 ジェームスの朝廷に出るも耻かしからず、巴里の夜會
 に臨むも時めくが如き婦人か生ずるに至るやも圖られま
 せん
 又一方にありては専ら實用を尙ひ、婦人ハ是れ迄の様
 無智無用の人間でハ仕方が無ひから、何んでも婦人には
 直接に世の中の利益ある事を教へ込み、有用ある人間
 にせざる可らずとし、裁縫も教ゆべし料理法も知らねハ
 成らぬ、毛糸の編ものも達者に成るべしと、總て婦人天賦
 の特性を利用して之を實益に充んとする流義がありす

る第一派は即ち美術主義の教育を主とし、外形より入り
 て漸くに女子の智識と進めんとする者にして之をダイヤ
 モンド派とも稱すべきものです、又第二派ハ即ち實利主
 義の教育と主とし、女子に實業を授け、之により漸く其
 位地を進めんとする者として、之を石炭派とも云ふべき
 者です 私人今日の女學生たる者ハ、右の一派にのみ偏
 して敢て他を顧みざるハ甚た宜しくあき事よて、其二者
 をうまく調合するのが必要じやと思ひます あせとやせ
 ば、美術主義の教育より婦人を社會の飾り物の如く看倣
 し、夜會舞蹈舞場に曝し置く計りでも面白くありませず
 又實利主義に偏し婦人を男子の使役物の如く心得て、臺
 所に追込み置く計りでも随分困ります 然らば美と用
 との割合ハどれ程あらば宜しきやとやせば、是は其人々
 の身分によりて幾分ハ調合加減と斟酌せねばありませ
 ん、あれ共概して之を云へば「美き多きを要せず用ハ多
 からざる可らざ」とやし度ふ御座ります 彼のダイヤモ
 ンドを御覽あさぬ 若しダイヤモンドが世の中に澤山あ
 つて、學校の歸り道にころ／＼と轉び居る様ならば、と

ても今の様に珍重さるゝ氣遣ひはありません 又石炭が亞弗利加の河の中にて時々豆粒程のを看出す様でいとも用にハ立ちません 左れば、一般にヤせば實用の心得は美術の心得よりは割合多くあつては叶はぬ事と思はれます

右ハ一般の規則に致しまして、扱前にもヤせし如く美と用との二元素は人々の身分、若しくは其貧富によりて、多少其割合を違へねば成りませぬ 例へば華族女學校の如き所にてハ、實用教育の法固より忽にす可らずと雖も、又美術主義の教育ハ餘程大切にて、隨分重なる部分を占めても宜しき事と思われず 又此學校の隣の女子職業學校の如きは、美術主義忘る可らずと雖も、素より實用を主とする學校であります

扱此東京高等女學校の學生たるあかた方ハ如何なる身分のれ方が多いかと申しますれば、中よハ例外もありません 共、先づ中等社會即ちミッドル、クラスとして、一國の腦髓とも申し、最も大切なる人民の部分に屬する人が十の八九であります 亦中等社會ハ最も勢力ある人民と

申しますと、一國の人民のあか程に立ち智識と財産を兼ねて居る者は、此種類の人民に限るからで御坐います

上等社會は財産ハあります 又智識も隨分ある者もありません 又中等社會程に智識と財産が釣合つてハ居ませぬ 又下等社會は通常智識も財産も乏しくあります

そこで、先づ文明諸國では中等社會に最も勢力が強いと申します 扱我邦にて我々如き中等社會ハ封建時代の武士の種が多數を占めて居りますから、西洋諸國の中等社會とは少し様子が違ふ所があります 西洋諸國にて中等社會の財産と智識との割合と、我邦の中等社會の智識と財産との釣合を較べて見ますと、我邦の中等社會ハ智識の割合にハ財産が少ふと思ひます 我々の位はお公家様の様に、身代よりは遙か高ふ御座います、然らば此學校の品位と云ひ、我々共の身分と云ひ、前に申す美麗部分も實用部分も兼ね修めねばなりません 別して只今も申す通りの我邦中等社會の有様です から、今日西洋の教育風化を我邦に入れ様とすれば、經濟の方には最も注意しなければ成らぬ事と思ひます 先

日社の友達の一人が、西洋風を本邦の婦人社會に入れる

弟夫婦等の道に暗き時は必竟美麗で恐ろしくあゝ怪物と

日社の友達の一人が、西洋風を本邦の婦人社會に入れるには「チープ、エンド、レファインド」(お安くて上品)と云ふ事を守るべしと申されました。チヨット勝手な注文の様は聞へまするけれ共、其中は無限の妙味を含み甚だ適切ある言辭と思はれます。

前よも申す如く、上等社會の炭素ハダイヤモンドと化する部分頗る大切でありますし、又下等社會の炭素ハ石炭とある部分最も大切で中等社會の婦人は双方共に要する位地は立つて居ります。若し我々にして教育の裝飾分よのみ偏事すれば、或は和歌と詠ずれば小町式部あそびにも優り、力ともいれずして天地を動かし目に見へぬ鬼神をもあはれと思はせ、音樂を奏すれば彈丸モザルト、ハシデル、メンデルゾーンの如く、梁の塵を動かし淵の魚を躍らし、繪を畫けば西洋のラフェール日本の雪舟金岡を欺き茶、生花、起居、拳動、言語、應對、髮の結様、衣物の着様、何から何迄實に一點の打ち所もあき、立派なレデーが出来るかも知れませんが、然し乍ら若し此婦人にして一家の經濟、衛生、子供の養生、教育法を知らず、親子兄

弟夫婦等の道に暗き時は必竟美麗で恐ろしくあい怪物としか看られませんか如何に風雅たる心にて春のあした、向島の櫻を雲かと疑ひ、秋の夕べ、瀧の川の紅葉を錦と詠むればとて、文久錢をね羅様の刀の鏝と見違へる様では困ります。昔し羅馬のオーガスダス帝フランス王國のシヤレマン大王等は皇后皇女等に彷彿裁縫を習はせ、近くは英國の今上ピクトリヤ女皇ハ皇女に料理法を習はせ玉ひしと語り傳へます。古今帝王すら此の如くでありませ我々が實用部分と力めなければならぬ勿論の事と思はれます。

又前に反し實益部分計りで、女子に尊ぶべき美麗の元素は少しも顧みぬと云ふ流義も困ります。婦人には編物だとか、料理法だとか、裁縫だとか計りを教へ、夫れで満足し居る連中の少しも婦人の温良美麗の元素を發達せしむるを勉めません。私ハ實業ハ勿論大切と思ひますし、且つ婦女子の實業は其位地を進むる一助とハ信じます。けれ共中等社會の者が是れ計に偏重してハ如何であらふかと疑ひます。必竟此方に計り偏しますると、謂ハゆ

る卑近ベースの實利主義ユーチリタリヤニズムに陥ります

是迄陳へました事へ譬へて申しますれば、美麗と實用の丁度エジプトの尖塔ピラミッドの様な物で、其頂上が美の極點て其基底が用の極點の様なものです。美は高く少く、高等社會に需用多くして、下等社會は需用少く、用は多く廣く上等社會と雖も是れなくては立つ能はぬものであります。中等社會は尖塔の中間にありまをから美用共に採らねば成らず且つ用の分量は尖塔の下底の方にありますから、割合多くなくては叶ひますまい。

扱右の如く美と用との比例を定め置きまして、是より右の考へを我々日常の心得方に適用して見ましやう。

先づ第一に衣服の事に就き一言を陳べましやう。衣服は身体の温氣を保つ爲めの物です。然し乍ら衣服の温氣を保つ丈けの用とあせば夫れよて足れりとし、其色合、恰好、着様等には少しも注意しなくてははいけません。女學生に往々ある事ですが、衣服の着様恰好等甚だ不注意にして、帯か背後へペラリと垂れて居る事がありますし、上前へと下前へか上り下りして居る事がありますし、衿

の邊かゴチャヤクして居る事がありますし、世の中の人や女生徒は一見して分ると申しますも、衣服の着かたあどが一つ目標とある者と見へます。尤も是れは無理のあも所もあります毎日の學業が世話しく、且つ之に實か入るとツイこう成り易ひ者です。男の方にも學者やら、學者の眞似をする人で随分衣服あどこの事には不注意な人があります。然し乍ら婦人方の別して衣服の身体を温むるの用の外に身体と飾るの用を爲す物じやと云ふ事を忘れてはいけません。衣服に就ては特に經濟と美術を兼ねるの注意が大切に御坐います。故に何卒華奢に流れずして優美あらん事を希望いたします。

洋服の事に就ても一言いたしたふ御坐います。近頃あの方の中にて、ニタ子其外平服に適する服地にておどおしく上品ある洋服を御拵へよ成りました。誠に結構な事として、前よ申す經濟と美術を兼ねた者と見受けまます。只今は日本にて洋服の行はれ始めたる所ですから、別して洋服に變ずる費を省き洋服お移るよ無暗に費が多いと云ふ様な感じと興させぬ方が宜しと思ひます。夫れ

に付きまして西洋のファッション即ち流行と申す事は甚だ

第三にハ動作の事よ移りまして 動作よ於ても矢張り實益

に付きまして西洋のファッション即ち流行と申す事は甚だ馬鹿らしき事じやと思ひます 西洋にては昨日の増上寺の釣鐘か淺草の仁王門の灯提を見た様を袴が行入れ、友人を訪問するも門口より歸らねばならぬ事があるかと思へば、又今日の應舉の書ける幽霊の様あるもすうが流行り、夜會に招かれても二階に上る事が出来あかつたと思ふ奇談が、私かイギリスに居る時分になりました 必竟ファッションと云ふ物の美術より出るもので御坐いません 仕立屋の金箱から出る化物で御坐います 次に髪飾の事を一寸お話し申します 髪の様も用と美と兼るが肝要です 文金の高髻芝居の如き姫様のビラヤ簪は成程美は美ですけれ共之を結ぶに時間を費し實業や運動に適せず、是れは美に偏重した物であります 東髪は誠によろしい 然れ共東髪は便利を尙び、少しも髪飾のかまわぬと云ふ様な流義が時としてあるよハ閉口いたします 獅子の洞入り三世相の荒神も餘り感心なたします 故に同じ東髪でも便利衛生等の實益の基礎の上に、幾分か美術の飾りと加へられん事を希望いたします

第三にハ動作の事と移りまして 動作は於ても矢張り實益と美術を兼ねねば成りません 衛生にかゝり實業は適する動作ハ則ち實用ある動作です ところであつた方と對しては甚だ失禮で御容赦を願ひますが、一般に申しますれば、日本の婦人よハ三つの惡き癖があると申します 一として其三つの癖ハ身体の上中下の三段に分れて居る事です 先づ第一には内足よ歩行く事、第二には前よ屈む事、第三にハ頭を前に突き出す事の三つです 斯う頭も腰も足も惡ひと申せば殆んど身体中委く惡く兩手計りが幸にして非難を免れた様な物です 決して失望するに及びません 皆直る事です 内足と前に屈む事ハ生理上如何ある害があるかハあつた方も既に御存じの事と思ひますし、他に少し理由がありました、今日のお話し申しません 首を前に突き出す事は或る御醫者が日本の婦人の首ハ菓物か何かの様ハ胴にあつて居ると申しました 隨分酷い評です 然し私の考へまするに是ハ元と髪は結様より起りじものであらふと思ひます タボを出しまするとドして首の前へ出る勘定です 試に日本風の髪は結

ひたて婦人を御覽あさい。タボが後ろの襟よつかへ、餘程苦しむて左右へ振り向く事さへ不自由の様に見えます。是ハ束髪にありまするとタボがあく成り、又洋服にありますると、平服ハ胸が開ひて居りませんから自然に直りまじやう。又右の三つは聯續して居る者として頭を胸の前より肩の上迄持上げますると自然と腰も延び又足も直る様よあります。右の三癖の中ドレから直し始めても宜しいとやす事です。

右の如く腰を屈め、首を突き出し、内足に歩行くハ、美術よ適つた位置でじやうか。優美ハ姿勢でじやうか。決してそふではありますまい、實用にも美術にも適わぬ者と思へれます。西洋の學者も姿勢を論じ「生理に適ひし運動ハ最も優美あり」と云ひ、又「優美とは生活位置及力を檢約したる位置及運動あり」と申しました。然らば姿勢動作よ付ても美麗と實益を調和するハ容易ハ事て御座います。終りハ交際上の事と少々述へまじやう。是迄我邦良家の處女は深窓よ養へれて居まして、交際社會にハ一切顔を出さあかつたものですが、近頃に至り文明の春

風が婦人の方へも吹き廻して來まして、鶯が谷の戸を出る様に追々と社會に現はれる、様よ成て參りました。總じて「自由が殖ゆれば責任も増す」と申しまして、ドウしても人よ交際いたしますれば種々の關係も生じ、様々の誘惑もあり、多く人目よ觸れ、さが無き人の口にも掛る事故深窓の下よ養へれ居る處女よ比しますれば、あまた方の責任ハ遙かに重くあります、故よ其徳義上の志操が堅固であくてハあらぬ事ハ今更申す迄もありません。これハ先生達よりも屢々御聽きあされまじたらう。依て私は西洋よて中等社會以上の娘ハ、此事に就き如何なる注意をあすかを御參考の爲めよ御話しやします、西洋にてハ未婚の處女は他の婦人に比しますれば一層徳義上の氣風を高尙にし、屈儀等の事よ就てハ非常の注意を加ふる者の様であります。

例へば平素談話の際でも少しでも下品ハ事や猥褻かまじき話しでも出ますれば其坐に居らす、中よは色を起し席を蹴立て其座を去りまする者もあり、又ハソコを程好く立ち去る者もあります。男子に於ても苟且にも聞苦しき

事を婦人の前にて語り出すを慎しみます。然るに日本よ

主意の如何しき物や、猥褻醜酷ある者は、見物するを耻

一切顔を出さぬかたのもので、近頃に至り文明の春

立ち去る者もあります。男子に於ても苟且にも聞苦しき

事を婦人の前にて語り出すを慎しみます。然るに日本よ
ては從來婦人を卑しみました風より、婦人の面前にて隨
分猥褻の話と始める者があります、又昔風の婦人は格別
之を氣に致しません。隨分落語師や淨瑠璃語りなどが猥
褻極まる事と云ふのを、聞き耻かしい共何とも思はずよ
笑ひ娛しむ婦人も時々見掛ますが、是等の誠に見苦しい
もので御座います。日本よては前にも申せし通り婦人の前
とも憚らず猥褻がまじき談話を始める不作法男もありま
すから、其時にハ少々不都合でも其坐を避けるが宜しか
らふと思ひます

又宴會集會などが招かれた時、主人又ハ賓客の中よ
品行上よ就き如何しき評判の者などがありました時ハ、
彼令へ兩親は之よ臨むも、未婚の娘丈けハ斷はるを常と
いたします

又未婚の若婦人が男女混合の宴會集會等に臨みますに
ハ、必らず兩親の中とか親戚とか婦人の教師とか其他然
るべき人と同伴であれば參らぬを例といたします
又遊興見物芝居等の如き者も、西洋未婚の若婦人達は其

主意の如何しき物や、猥褻醜酷ある者は、見物するを耻
かしいと思ひます。我邦の演劇よて申しますれば、遊女
とか藝者とか或ハ盜賊とか情死をした者とか、主人公
とある演劇ハ中々行く事でもありません。鬼神阿松とか
、姫妃の阿百だとか、阿染久松の類ハ男が見ても面白く
ハありません。又お岩の芝居で火吹竹ふて手の指をピシ
々々と折つたり又近頃或る劇場よて演せし狼と喰はれる
所の如き非常ハ醜酷ある演戲は、西洋でハ許しません。が
、日本にてはまだ男女共に面白がり「ドーモ何五郎の喰
はれ方がうまい」などと、感賞するハ嘆息の至りて御座い
ます

又西洋の若き婦人の平素讀まざる書物類にも、餘程注
意いたす様であります。詩歌小説の類にても或ハ遊女
などの事が書いてあり、其他下品ある事を綴りし書類が
棚にありても之を恥といたします。然るに日本では、男
子にても人の面前で讀み兼る位の人情本や草双紙の類、
貴婦人令嬢の纖々たる素手よ觸れ居る事を見受ける事か
あります。是れハドウか止めて貰ひ度ひ事で御座いま

す

簡様にやかましく申したならば、道德堅固の婦人方ハ私ヨ
 向つて斯と申さるゝかも知れませぬ 蓮は泥中にありて
 も濁よ染ままぜ、玉ハ瓦礫に混するも光りを失はず、我志操
 さへ清淨潔白よして堅固あらば、仮令へ一人にて男女混
 合の席に臨もふが杞岩の芝居を觀ようが、人情本ヲ讀ふ
 が、少しも婦徳を損する事ハあるまいと 一應ハ御尤で
 御座います 然し是等の人々ハ、現今教育を受くる婦人
 ハ、將來の婦人の風を作ると云ふ大責任あるを忘却して
 居る人々です 諺にも「鵜の眞似をする鳥ハ水を呑む」と
 申し今あなの方の如き、充分よ水を潛り魚を捕るの技倆
 ある人々が、世の中の急流深淵を潛つて見せますると、
 世間の烏娘等カラスムスメも之よ倣ひ、事によると水を呑み、飛んだ
 間違と生ずる事があります 一身の爲めよは兎も角、或
 ば世人を誤る事が出来ましやう彼の「西施の擗ハ傍醜之
 よ倣ふ」とか申し、世の中よて一番高き教育を受け居ら
 ぶ方にて美人に喩ふれを、西施とも云ふ可き方々が、擗
 みて觀せまると、近傍のか多福も矢張り顔をしかめま

と

抑も我邦よて女子の教育の尊きを知りしハ此頃の事よて
 、女學の大切と云ふ事は世人も稍々分りましたけ
 れ共、女子教育の結果はドウ云ふ者であると云ふ事はま
 だ知りませぬから、其實例として皆あなの方と觀て居
 りませぬ あなの方が天晴な者に成て御見せなると、世
 間ハ倍々女子教育の大切なる事を信ずるに至りましやう
 若しあなの方の結果思はしくあり時は、又々明治七年
 以來の如く女子教育に多少の反動を招く事も共申され
 ませぬ 思へハ思ひ廻し程あなの方の責任ハ重ふ御座い
 ませぬ 故よあなの方ハ志操の堅固なる事ハ彼炭素の如く
 如何ある熱度に逢つても溶解せず、又惡しき元素と合し
 て炭酸瓦斯の毒氣とならず、或ハダイヤモンドとなり或ハ
 石炭とあり、能く經濟と美術を併せて、花も實もある結
 果を生せん事を希望いたしまして

○
 スタチスチックノ學理
 スタチスチックノ理論ハ英文ニテ記述セシ者少シ此一

篇中緊切ナル部分ニ英語ヲ挿入セシハ之ニ由テ英文ヲ解スル人ニ真正ノ意味ヲ知ラシメノコトヲ望ムカ故ナリ譯文妥當ナラスシテ其眞味ヲ寫出シ難キハ余ノ遺憾トスル所ナリ○有名ナルスタチスチック家ニシテ此ニ載セサル者ハ他日歴史ノ部ヲ著スルハシテ之カ姓名ヲ顯スベシ

東京統計協會特別會員

スタチスチック社會員 吳 文 聰

或人問フテ曰ク統計トハ何ソヤ對ヘテ曰ク統計トハ事物ヲ代表スル數字ノ集メナリト又問フテ曰ク統計學トハ何ソヤ曰ク之レ未タ容易ク對フルヲ得サルトリ其故何ソヤ統計學ハ未タ其學域目的等ニ就キ學者ノ說確然一定セサル者アレハナリ然レモ此問題ニ對シ其答案ヲ示サ、ランカ世人ハ遂ニ統計學ノ何物タルヲ了解スルコト能ハサルヘシ余此學ニ就キ一日ノ先進者タルノ故ヲ以テ敢テ明リニ其測度スル所ヲ擧ケテ之レカ解釋ヲ試ム可シ先ツ第一ニ漠然ト之ヲ云ヘバ統計學ハ數字ヲ以テ人生社會ノ事柄ヲ該科學ノ方法ニ從テ記シ且ツ之レカ説明ヲ爲スモノナリ

ト云フ可シ然ラハ統計學ノ目的ハ數字ヲ以テ社會ノ事ヲ記スルニ止ルヤト問ハ、何ソ敢テ然ラン統計學ハ數字ヲ以テ事物ヲ代表セシメ之ニ由リテ社會ノ事物ノ成リ行キヲ視其如何ナル方向ニ向ツテ進行スルヤ人生ハ果シテ如何ナルモノナルヤノ如キ社會學中ニ於テ容易ニ辨明シ難キ高尙ノ道理ヲ闡明スルノ學科ナリ或人說ヲ爲シテ曰ク天地萬物ニハ皆一定ノ規則アリ此規則ニ從ツテ運動スル者ハ是レ即チ天帝ノ命令ナリ而シテ此命令即チ天則ヲ發見スルコソ統計學ノ目的ナリト云フ者アリ試ミ此等目的ニ到達セント欲セバ其方法トシテハ

現象ノ法 Laws of Phenomena

原因 結果ノ法 現存ノ法 Laws of Causation Laws of Existence & Development

法 大數ノ法 等ノ諸法ヲ利用スルコト極メment Law of Large numbers

テ要用ナリ論者はニ於テカ曰ク然ラハ天則ヲ發見スルコトノミ統計學ノ目的ナリヤト問ハ、此レ未ナリ其天則ヲ發見スト云フカ如キハ統計學中最高點ノ理論ナリ然リ而シテ其他ノコトハ皆ナ統計學中ノモノニアラスト云フヲ得ス然ラハ如何ナルモノヲ指シ尙此他ニ統計學ト云フヤ曰ク數

字ヲ以テ社會ノ事物ヲ代表セシノ其相互ノ關係ヲ觀察シ
 若クハ其原因ト結果トヲ見スルカ如キハ統計ノ材料ト
 方法ヲ運用スルニ過キスト雖モ亦統計學ナリト答フヘシ
 故ニ統計學ハ又數字ヲ以テ現在事物ノ相互ノ關係ヲ討究
 スルノ學ナリト云フヲ得是レ猶經濟學中ニ應用經濟ノ存
 在スルカ如シ而シテ其目的ハ如何ト問ハ、前ニモ記スルカ
 如ク凡百事物殊ニ人間社會ニ於ケル種々ノ行爲ノ數字ニ
 上ル可キ者ヲ討究シ自然ノ規約ヲ窺知シ之ヲ利用シテ人
 生ノ福利ヲ増進スルニ在リト云フヲ得可シ彼ノ徒ニ堆積
 スル物數ハ之ヲ統計ノ材料ト云フヘシ數字ヲ列記スル業
 作ノ如キハ之ヲ統計材料ノ整頓ト云フヲ以テ足レリトス
 而シテ統計ノ限界ハ如何ト問フ者アラハ則チ曰ハントス統
 計學ノ本領ハ人事ノ現象ナリ物理ノ現象ハ其藩屬ナリ其
 精詳ハ左ノ理論ヲ玩味シテ之ヲ知ルヘシ

統計學理論

夫レスタチスチック [Statistics] ハ輒近ノ學ナリ是ヲ以テ
 英國ノ如キハ今日ニ至ルモ尙ホスタチスチックヲ以テ一
 科ノ Science (科學) ト爲サス唯々之ヲ以テ Auxiliary sci-

ence (他ノ科學ヲ幫助スル科學) ト爲セリ故ニ此學英國并
 ニ米國ニ盛ナラス隨テ英學ノ行ハル、我國ニ於テモ亦盛
 ナラス然ルニ歐洲大陸ノ諸國ニ在リテハ近世スタチスチ
 ックヲ以テ一ノ科學ト爲シ從テ學者著書並ニ輩出セリ而
 ノ其有名ナル人ノ一二ヲ舉クレハ白耳義ノ M. Quetelet
 佛國ノ M. Morou de Jones, M. Maurice Block 日耳曼ノ
 Dr. Ernst Engel, M. Hansfoher, Dr. Georg Mayr, J.E. Wap-
 Paus 伊太利ノ Dr. Antonio Gabaglio 等皆ナ著作ヲ以テ顯
 ハル其他日耳曼ノ如キハ有名ノ學士ニ乏シカラス其說ニ
 曰ク ^{スタチスチック} Statistic ハ ^{Science} 科學ニシテ且ツ ^{Method} Method (方法)
 ナリ而シテ如何ナル時ニ於テ科學ニシテ如何ナル時ニ於テ方
 法ナルヤト問ヘハ各種ノ科學ニ應用シ又ハ之ニ應用シ得
 ヘキ場合ニ於テハ之ヲ方法ト云ヒ社會ノ現象ヲ調理スル
 場合ニ於テハ之ヲ科學ト云フナリ殊ニマイルブロッツクガ
 ハグリオニ氏ノ說ハ共ニ符節ヲ合ハス如シ此三氏ハ皆ナ
 スタチスチックヲ以テ方法ト科學トノ二種ニ別テリ方法
 トモハ左ノ如ク云ヘリ The Method is a mode of scientific
 procedure based on the observation of aggregates of indi-

vidual phenomena. (方法トハ各個ノ現象ノ大數ノ点檢ニ基キタル科學的ノ調理法ナリ)而シテ此方法ハ各種科學上ノ現象ニ應用シ得ヘシト雖殊ニ社會ノ現象ニ善ク適合ス是レ蓋シスタチスチックニ由テ社會ノ疑件ヲ闡明スルヲ以テ一科ノ學ト爲シ之ニ付スルユスタチスチック學ノ名ヲ以テセシ所以ナランマイルブロックガハグリオ三氏ノ著書ニハスタチスチックト云ヘル文字ニ二様ノ意味アリト云ヒ殊ニマイルガハリグオノ二氏ハ同シ文字ヲ用ヒ Statistics in wide sense, Statistics in narrow sense 即チ廣キ意味ノ統計狹キ意味ノ統計ト云ヘリ廣キ意味トハ method (方法)ノ謂ニシテ狹キ意味トハ science (科學)ノ謂ナリ前段已ニスタチスチックノ意義ノ概畧ヲ陳ヘタレハ之ヨリ重複ノ恐ナキニ非スト雖一々諸氏ノ著書ニ就キ科學上ノ解釋ヲ掲ケ以テ其意義ヲ一層明亮ナラシメン

ドクトルマイル氏ノ著書ハ其名チ Die Gesetzmässigkeit im Gesellschaftsleben (社會生活ノ中ニ規律アル)ト云ヒ氏カスタチスチックニ關スル意見ハ載セテ此書ノ第十二頁第十四頁ニ在リ其文左ノ如シ While The statistical or

numerical method holds sway, wherever there occurs a quantitative determination and co-ordination of facts, based on observation of aggregates, the field of the science of statistics is restricted to the quantitative investigation of the Social life of man, which is only attainable by means of the observation of aggregates. Accordingly I define the statistical science as the systematic statement and explanation of actual facts, and the laws of man's social life that may be deduced from these on the basis of the quantitative observation of aggregates.

右ノ文ヲ意譯スレハ左ノ如シ

スタチスチックノ方法即チ數ノ方法ハ大數ノ點檢ニ基キタル數量上ノ決定及事實ノ調理ヲ要スル場合ニハ總テ之ヲ用ユベシト雖スタチスチック學ノ領分ハ人生社會ノ數量上ノ吟味ニ限レル者トス而シテ此吟味ヲ爲スハ唯タ大數點檢ノ方法ニ由テノミ此目的ヲ達スルヲ得ヘシ故ニ余ハスタチスチック學ヲ解釋シテ實在事實並ニ大數ノ點檢ニ基キテ實在ノ事實ヨリ推引シ得ヘキ人生社會ニ存スル天

律ノ方法ニ合ヒタル記述及説明ナリト云ハシ
 論者アリ氏カ此說ヲ難シテ曰ク人生社會ノ事實ニ係ル大
 數點檢ハ何故之ヲ科學ナリト云ヒ物理ニ係ル大數點檢ハ
 何故之ヲ方法ナリト云フヤト氏之ニ對ヘテ曰ク物理諸學
 ノ大數點檢ヲ用ルハ時ニ之ヲ用ルニ過サレテ社會ニ係ル
 諸學ハ其討究ノ際之ヲ用ヒサレハ他ニ用ヘキ方法一ツモ
 アラサルカ故ナリトモリスブロッソ氏ハ其著書『Traite
 Teorique et Practique de Statistique』ノ八十五頁八十六頁
 ニスタチスチックヲ解釋シテ曰ク La Statistique may be
 regarded as a science, and as a method: as a science, it
 aims at expounding the political, economical, and social
 condition of a nation, or generally, of a group of populati-
 on; from this point of view, then, the name 'Demography'
 has been assigned to it. In order that this exposition
 may possess a scientific value, it should be the result of di-
 rect observations, and the facts must have been collected
 with care, and above all, with precision; they must have been
 counted, weighed, and measured. This precision is manifes-

ted in the employment of figures, of numerical terms.
 La Statistique, then has its modes of procedure; it has a
 special method of observation, which consists: 1. In the
 employment of the numbers; 2. In grouping them with the
 object of extricating the facts which are (relatively) perma-
 nent, that is to say, of abstracting them from facts which
 are accidental; 3. In the comparison of permanent facts
 and of accidental facts, in different places and in different
 circumstances; and evidently, also, 4. In the employment
 of the data collected and mathematically elaborated for the
 purpose of more or less direct inductions and deductions.
 右ノ文ヲ意譯スレハ曰クスタチスチックハ科學トモ見做
 スヘク方法トモ見做スヲ得ヘシ科學トシテ之ヲ見ル時ハ
 一國政事上——經濟上——社會上——ノ狀況ヲ説明スル
 ヲ目的トス此點ヨリ之ヲ視ミ首メテ人員學ノ名ヲ命セリ
 カテ之ヲ科學ノ價值ヲ保タシムル爲メニハスタチスチ
 ックノ事實ハ直接點檢ノ結果タル可ク之ヲ集ムルニハ注
 意ト特ニ精確トヲ要シ又之ヲ計算度量スルヲ以テ必要ト

ス而ノ其精確ナルハ數字ヲ用ウルヲ以テ明亮ナリトス

es and laws of the phenomena. As a science, Statistic obs-

ス而ノ其精確ナルハ數字ヲ用ウルヲ以テ明亮ナリトス
サレハスタチスチックニハ其取扱ニ方法アリ又其点檢ニ
モ特殊ノ方法アリ

第一 數ヲ用ウルコト

第二 常ノ事實 [常トハ關係上ニテ云フ真ノ常ニハアラズ] ヲ不意ノ事實ヨ

リ引キ離サントノ目的ヲ以テ之ヲ集ムルコト

第三 異ナル場所或ハ狀況ニ於ケル常ノ事實ト不意ノ

事實トヲ採リテ比較スルコト

第四 論理ノ目的ニ向テ蒐集計算セシ材料ヲ用ウルコト

エングエル氏ノ釋義ハ左ノ如シ

As a method it is Systematic Observation by means of masses of facts, and, as such, it offers itself for the service of the natural sciences as well. The use of this method consists in mechanical operations such as the observation of facts, the recording, classification, and grouping of these observations; and in operations of criticism, such as the Interpretation of the observations, their comparison with reference to time and space, and the search for causes

es and laws of the phenomena. As a science, Statistic observes, the life of peoples and States in their various these aspects and manifestations; it studies these arithmetically and demonstrates by analysis their causal relation.

右ノ文ヲ意譯スレハ左ノ如シ

スタチスチックノ方法ト云フハ事實ノ大數ヲ基本トセシ

方法ニ合ヒタル点檢ヨリ成ルモノニシテ斯クノ如キ場合

ニ於テハ物理學上ニモ之ヲ應用スルコトヲ得ルモノトス

スタチスチックヲ方法ト見做シタル場合ニ於テ其取扱ノ

第次條目ハ左ノ如シ

第一 事實ノ点檢 点檢ノ記録 点檢ノ類別

点檢ノ蒐集是ナリ之ヲ器械學的ノ取扱ト云フ

第二 点檢ノ解釋 場所或ハ時ニ關シ点檢ノ比較

現象ノ原因并ニ法則ノ討究是ナリ之ヲ審判的

ノ取扱ト云フ

スタチスチックノ科學タル場合ニ於テハ人民并ニ國家ノ生活ヲ其種々ナル狀況及發現中ニ視察シ其狀況及發現ヲ算數上ニ研究シ而シテ其原因上ノ關係ヲ分解法ニ因テ説明

スルニ在リ

スタチスチックヲ以テ學術ト見做ス場合ニ於テエンゲル氏ハ其學域ヲ人ノ生活ニ關スル事件ニノミ限リシト雖物理ニ係ル事件ヲ全ク放棄スヘシト爲セシコハアラス何トナレハ氏ハ物理上ノ事件ヲ研究スルヒジヒシチロシーチフ、キ、ヒエレーシヨハ人員生理學ノ解釋ヲ爲ス爲メニ極メテ必要ナリト思考シタレハナリ氏ハ人類社會ニ發現スル有様ノ記載ヲスタチスチックヨリ排除シタルヲナシ又スタチスチックヲ或ル期限内ニ制限シタルヲナシ却テスタチスチックハ進行スル歲月ヲ追テ社會ノ狀況ヲ思考セサル可ラサル者ナリト云ヒ又スタチスチックハ固ヨリ數ヲ用ウルモノナリト雖社會ノ德義ニ關スル場合ニ於テハ其最小部分ノミ數ニ因テ之ヲ取扱フコトヲ得若シクハ之ヲ數字ト爲スコトヲ得ルモノナリト云ヘリ

ハウスポーヘル氏モ亦スタチスチックヲ別チテ科學方法ノ二トス方法トハ大數点檢 (mass observation) ノ手段ニ由テ有様 (Condition) ト出來事 (events) ナ穿鑿スルモノトセリ而シテ此方法ハ常ノ原因 (permanent cause) ト常

ナキ原因 (variable cause) ト同時ニ其カヲ逞フシテ發生セシ現象ニハ其人生社會ノモノタルト物理社會ノモノタルトヲ問ハス總テ之ヲ應用スルモノト爲セリ点檢シタル現象ハ之ヲ數量ニ改メ數ニテ記スヘシ其數ニ改メ難キ場合ニ於テハ最モ數量ニ近キ言辭ヲ代用ス可シ材料トシテ蒐集セシ數ハ其場合ニ應シテ悉ク同位ノ數ニ改算シ恰好ノ表中ニ之ヲ記入ス可シ

結果トシテ考ヘラレタル一ツノ現象ト原因トシテ考ヘラレタル二三ノ現象トノ間ノ關係ハ之ヲ名ケテ現象ノ法ト云フ (Laws of phenomena) 一ツニ又原因ノ法ト云フ (Law of causation) 此法ハ一定ノ準繩ニシテ此結果ハ此原因ノ成果ナリト云フコト示スモノトス故ニ Statistical law is the shortest expression for the constant relation of dependence between effects and causes. (スタチスチック法ハ原因並ニ結果ノ相互常久ノ關係ヲ最モ簡短ニ云ヒ出セシモノナリト) ト云ヘリ

夫レ物理ノ法ハ單個ノ場合 (Single cases) ニ於テモ亦眞ナリト雖スタチスチックノ法ハ唯タ多數ノ場合ニ於テノミ

眞ナリトス是レ畢竟多數ナレハ少數ノ場合ニ於テハ隠蔽

是レナリ (It has unity of method, and also a certain unity

眞ナリトス是レ畢竟多數ナレハ小數ノ場合ニ於テハ隱蔽セル一種ノ規則立チタルヲ (a certain regularity) ヲ見ハスカ故ナリ

大數ノ法 (Laws of Large number) ハ其法ノ支配スル現象ヲ生スル種々ノ原因ニ由來スルモノナリ而シテ此等ノ原因ハ常ニ變リ易キモノナリ故ニスタチスチックハ此原因ヲ法ト爲スタメニ常ノ原因 [constant cause] チ發見セサル可ラス即チ徐々ニ常ナキ原因 (variable cause) チ常ノ原因ト爲スヲ勉メサル可ラス但シ此ニ所謂原因トハ根本ノ原因 [final or ordinal cause] ニハアラス止タ稍ヤ近キ原因 (approximate cause) ヲ云フナリ

科學トシテハスタチスチックハ總量ノ學ナリ殊ニ人事現象ノ總量ノ學ナリ又國家學ナリ國家運動ノ學ナリ又運動ノ法ノ學ナリ (As a science, Statistic is the science of aggregate, especially of aggregate of human phenomena and of the State, of its movement and its laws.)

スタチスチックハ方法ニ就テ單位ヲ有ス何ソヤ人事ノ現象是ナリ其論旨ニ就テモ單位ヲ有ス何ソヤ國家ノ現象

是レナリ (It has unity of method, and also a certain unity of subject matter namely, the phenomena of human beings in society, and of the State.) ○ガバクリオ氏曰クスタチスチックハ廣キ意味ト [extended sense] 狹キ意味 [restricted sense] ノ二ツニ解釋スルヲ得前者ハ方法ニ後者ハ科學ナリ

科學トシテハ數理的歸納法ヲ手段トシテ實際ノ社會政事上ノ秩叙ヲ研究スルモノトス (As a science it studies the actual social-political order by means of mathematical induction.) 而シテ氏ハ實際ト云ヘル語ニ就テ特ニ注意スベシト云ヒスタチスチックハ社會ト政事上ノ秩序ヲ研究スルニ其ハ斯クノ如クナルヘシトシテ之ヲ研究スルニアラス實際斯クノ如クナリトシテ之ヲ研究スルナリ而シテ其要ムル所ハ社會上及政事上ノ現象ヨリ引出セル イムベリカル 經習上ノ原因及ヒ變ルベキ原因ニアリ (Empirical and Variable causes) 歐洲大陸諸學士ノ說右ノ如クナレハスタチスチックト云ヘル文字ニハ二様ノ意味アリト云フ可シ其一ハ科學上穿鑿ノ法則チ各種ノ科學ニ應用シ得ヘキモノ [a method of scientific inquiry] 其二ハ人ノ社會生活ノ上ニ關係スル

科學 (A science dealing with the social life of man) 此科學タル場合ニ於テハ社會學ノ一支學ニシテスタチスチックノ方法ニ由リテノ研究シ得ルヘキモノナリ

而シテモリスプロツクハスタチスチックノ學ニ人員學ノ名ヲ用ヒタリ其解ニ由レハ人員學ハ數字ニテ發言シ得ル社會人事ノ科學ナリト云ヘリ (Demography is the science of man in social state in so far as it can be expressed by figures)

ガバグリオ氏又曰クスタチスチックハ社會學ニシテ且ツ政事學ナレハ他ノ社會學又ハ政事學ト自然親密ニシテ共同ノ目的ヲ有ス然レモ敢テスタチスチックハ其區域ヲ超越シテ他ノ學域ニ侵入スルモ可ナリト云フコアラ

第一類 社會性理學 經濟學 社會心理學等

Social physiology, Economics, Social psychology, &c.

第二類 建國學 行政學

Constitutional science, Administration.

右二類ノ學トスタチスチックノ異ナル点ハ左ノ如シ

第一 スタチスチックノ主意中ニハ社會ト國トヲ有シ

二重ノ性質アル (In being of two fold nature, having for its subject with Society and the State.)

第二 領分ノ廣キト則チ社會上政事上ノ事實ニ就キ此部彼部ト限ルトナク同時ニ百般ノ事實ヲ討究スル

By the extent of its field, in that it is not occupied merely with this or that field social or political fact, but with all social and political facts at once.)

第三 要素ノ異ナルト及ヒ勤務ノ特別ナル性質ヲ有ス

ルト則チ靜狀的動狀的ノ思考ニ於テ社會並ニ政事上ノ現象ノ實在ノ原因及法ヲ討究スル (By the unity and the special character of its function it being restricted to the research after the actual causes and laws of social and political phenomena, considered statically and dynamically.)

右ニ學クル諸氏ノ論ニ據レハスタチスチックハ之ヲ物理

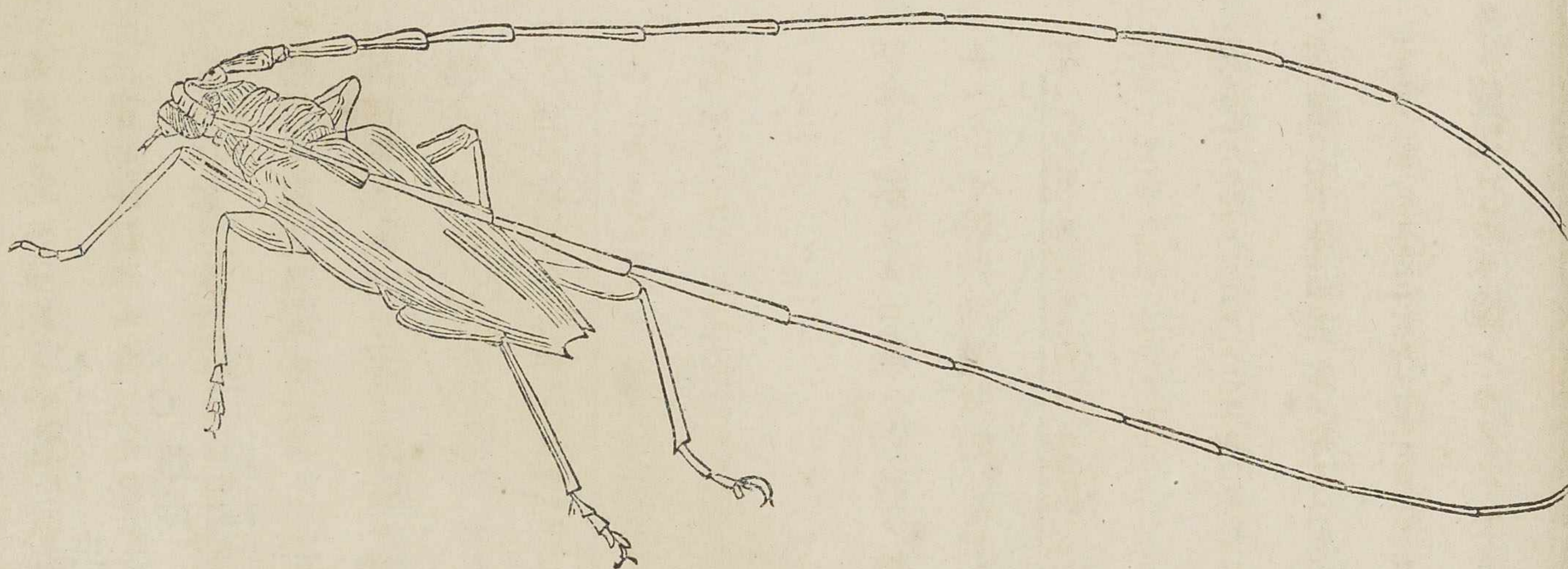
ノ社會ニモ適用スヘク又人生社會ニモ適用スヘシ然レモ
 スタチスチツクノ領分中其最モ大切ナル部分ハ所謂人員
 學ノ部分ニシテ此部分ノ事實ハ物理社會ノ事實ト異ニシ
 テスタチスチツクニアラサレハ得テ研究ス可ラス蓋シ物
 理社會ニ於ケルスタチスチツクハ之ヲ以テ學術研究ノ補
 助ト爲シテ第二ノ地位ニ置クモノナレハ社會學中ノスタ
 チスチツクト其輕重固トヨリ同日ノ論ニアラス是レ人生
 社會ノ事實ヲ研究スル場合ニ於テ特ニ之ヲ以テ一科ノ學
 術ト爲ス所以ナリ

○ 花ノ効用ヲ論ス(前号ノ續キ)

在英國竜動大學校 伊藤篤太郎

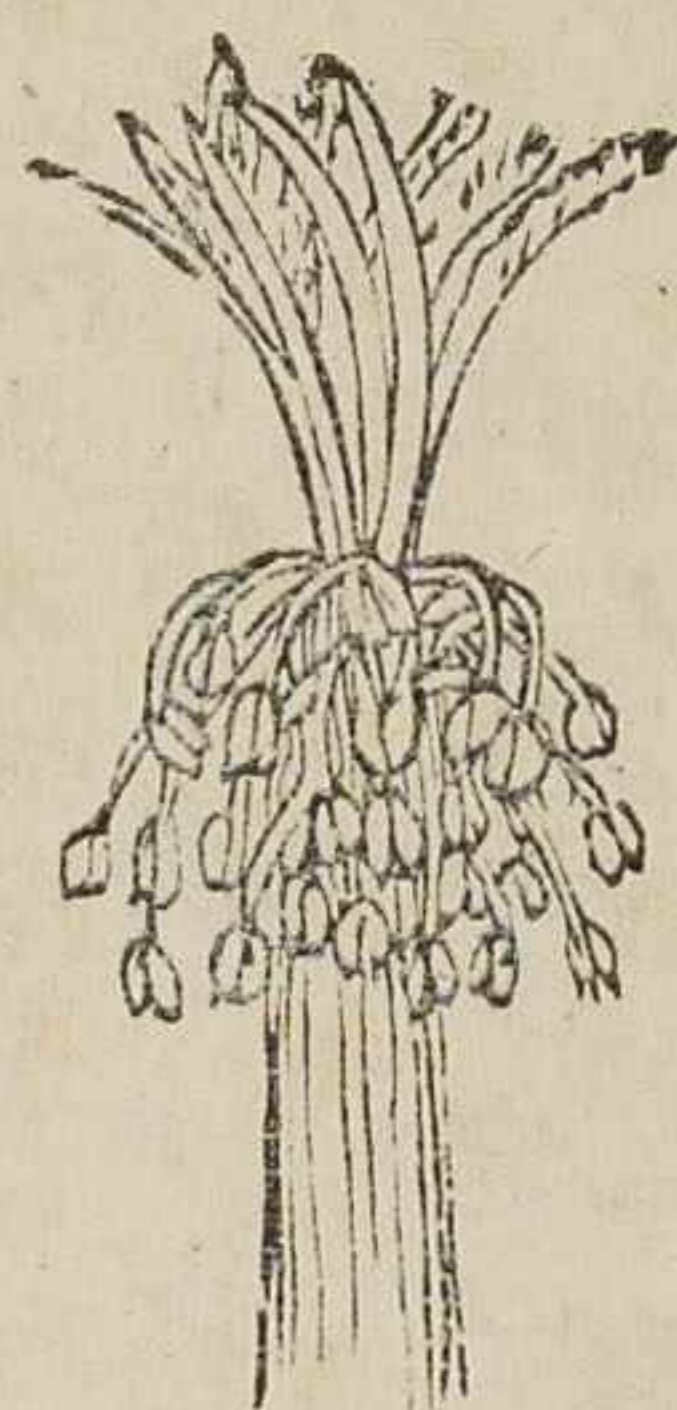
右ニ説明セル甲種ノ穂花ハ穂本ノモノヨリ開キ後漸々穂
 端ニ及ブチ常トス又此花ハ雄蕊、雌蕊ニ先チテ成熟スル
 モノナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ開花ノ初時ハ皆雄トス然
 ルコ下部ノ花漸ク老フルニ從テ雌トナリ雄ハ只雌ノ上方
 ニ位ス儲蜂ハ其性質常ニ穂本ノ花ヨリ始メテ漸々上方ニ
 登ルヲ以テ常トスルモノナレハ蜂ノ背上他株ノ花ヨリ運

第 十 六 圖



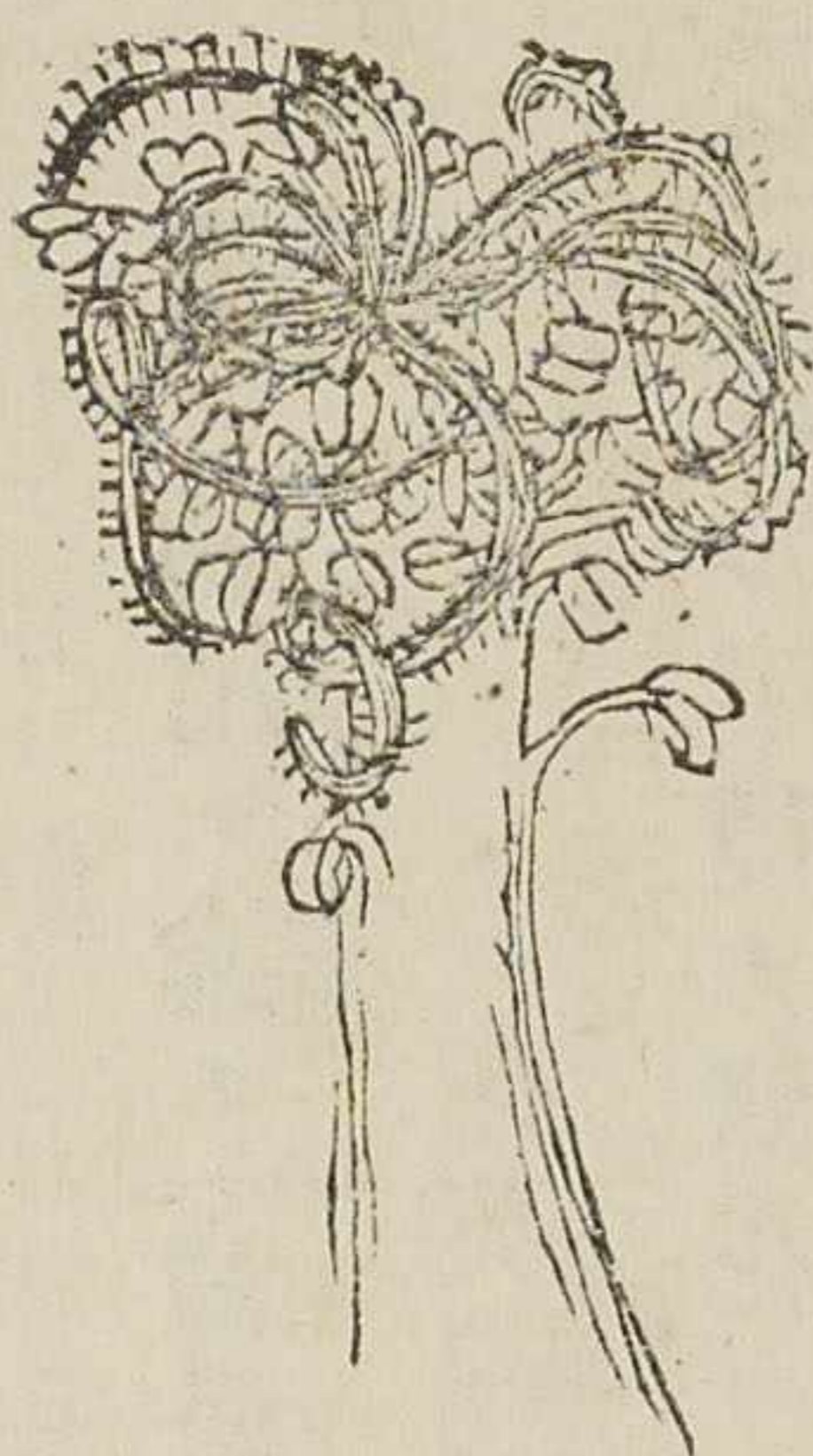
載セル花粉ヲ以テ
 此株ノ花ヲ媒助交
 通セシメ而后此花
 ノ花粉ヲ帶ビ去リ
 再ビ他株ノ花ニ至
 ルナリ故ニ蜂ノ上
 方ニ昇ルニ便ゼン
 カ爲メ花皆仰キテ
 開咲ス即チ第十九
 圖ニ示スガ如シ之
 ニ反シ雌蕊、雄蕊
 ニ先チテ成熟期ニ
 達スル花アリ例之
 バ玄參ノ一種ニ於
 ケルガ如シ此種ハ
 熊蜂クマバチチカリテ媒助
 交通ヲ得ルモノナ
 リ熊蜂ハ常ノ蜂ト

圖七十第



ハ反シト花ヨリ初メ下方ニ
至ルモノナリ故ニ先ツ穗端
ヨリ開花ヲ要スルナリ此等
ノ花ハ俯シテ開咲スルヲ常
トス(第二十圖)

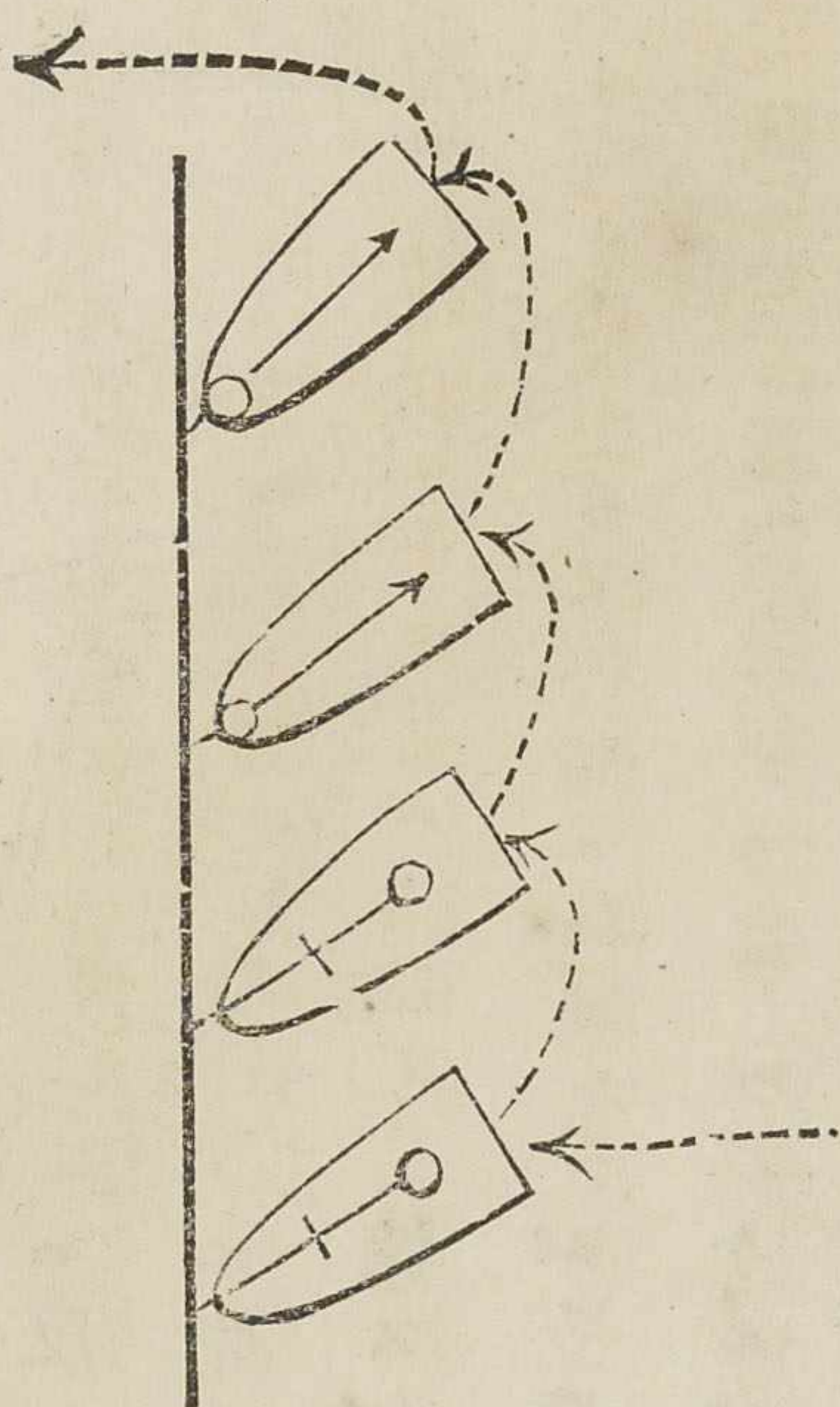
圖八十第



余輩ハ花ノ麗色ハ以テ蟲類
ヲ誘引スルノ要具ナリトノ
事實ヲ知レリ余ハ猶ホ歩ヲ
進メテ何色ノ花ハ何蟲ヲ誘
導スルヤヲ知ラント欲スル

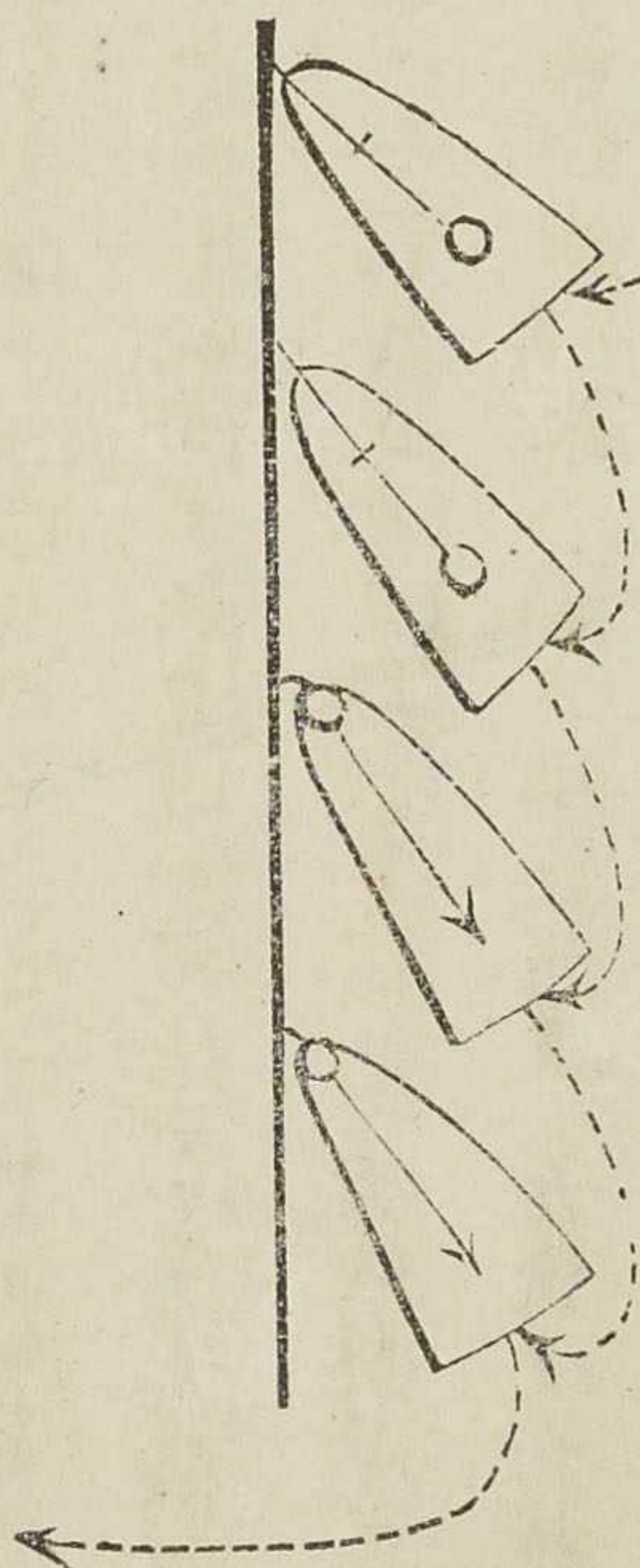
ナリ若シ試ニ諸色ノ草花ニ來集スル蟲類ヲ注視スルコト
ラバ小蠅ハ常ニ白色ニ來リ甲蟲ハ鈍黃色ノ花ヲ避ケ又蜂
蝶ハ白、紫、青ノ諸色ヲ注目スルノ事實アルヲ發見スベシ
フリッツ、ミユルラア氏ガ實驗ニ據レバ南亞米利加ニ馬鞭
草科ニ隸スル植物ニシテ「ランタナ」ノ一種アリ此草ハ開
花ノ后時ヲ經ルコト從ヒ花色ヲ變ズルモノナルガ此草ニ來
ル蝶ハ花内ニ入ランガ爲メ葉上ニ停止シテ其色ノ變ズル
ヲ待チ居レリト云フ是レ蟲類ノ花色ヲ區別スルノ力アリ

圖九十第



虫類飛翔ノ方向

圖十二第

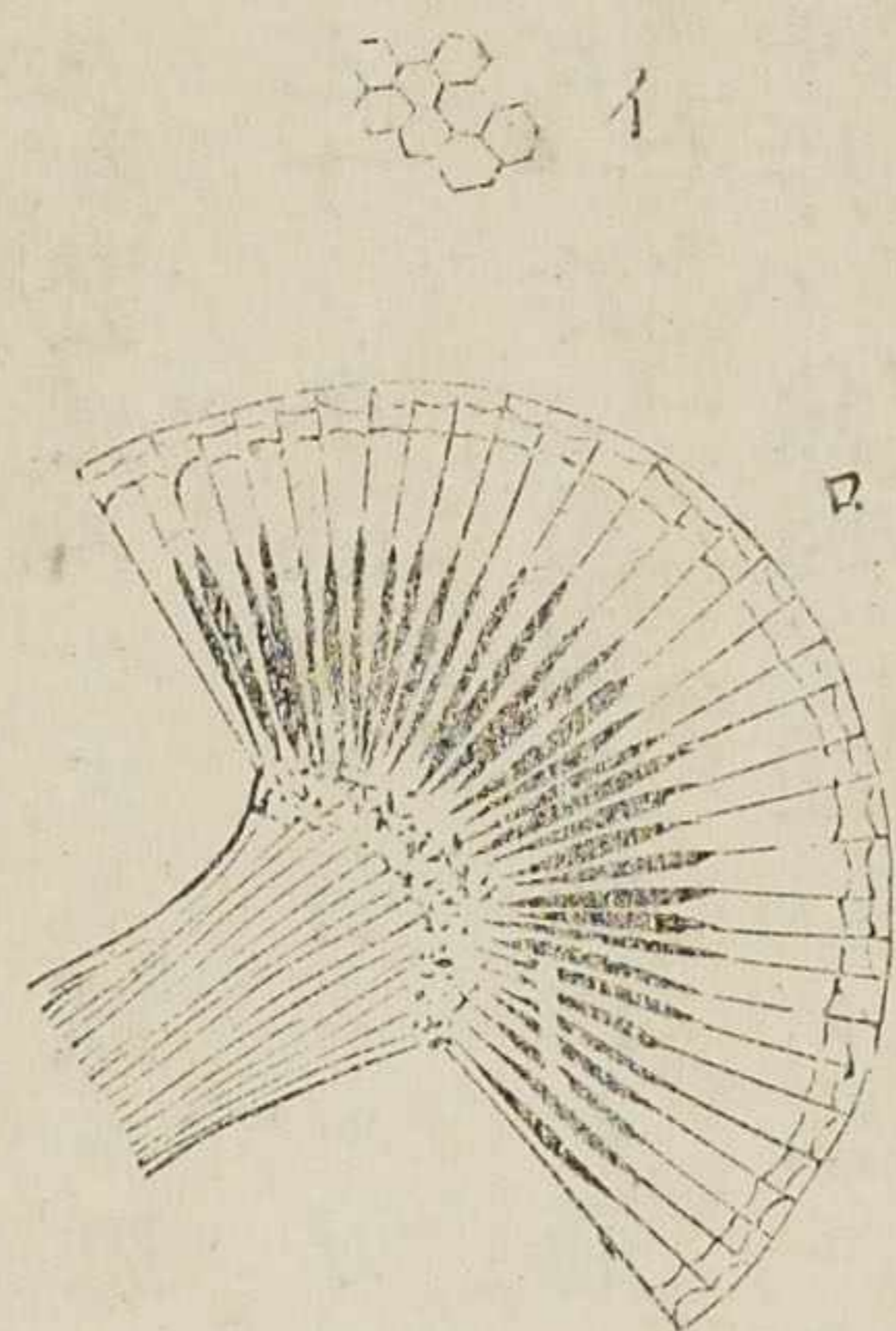


テ諸色ヲ好避スルノ性アルニ根スルモノナルベシ故ニ蟲
類ハ果シテ諸色ヲ分別スルノ力アリヤ否ヲ了知セザルベ
カラザルコトナルガ今之ヲ研究スルニ先チ抑モ蟲類ハ如何
ナル視官ヲ以テ百花群芳ノ艷色ヲ分別スルヤヲ尋チザル

ベカラズ故ニ余ハ眼科上ヨリ眼類ノ視官ヲ攻究シ然ル后
蟲類ノ諸色ヲ分別スルノカアル所以ニ論及スルヲ以テ其
當ヲ得タリト信ズルナリ

抑モ蟲類ハ吾人人類トハ違ヒ二種ノ眼ヲ有ス一ヲ單眼ト
謂ヒ一ヲ復眼ト云フ共ニ頭上ニ位シ甲ハ微小コシテ殆ソ
ド稀視シ難ク乙ハ二個アリテ最モ巨大著明ナリトス且甲

第二十一圖



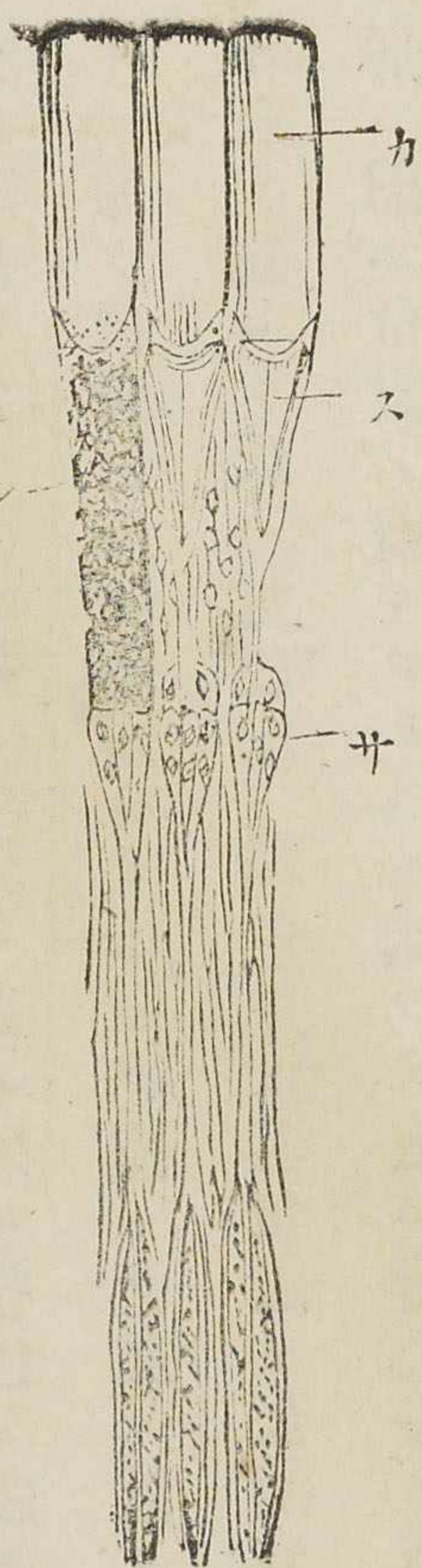
ハ其數通常三個ナレモ乙
ハ各若干ノ小眼面ノ集合
セルモノニシテ恰モ蜂巢
ヲ望ムガ如シ此小眼面ハ

ソノ形六角コシテ(第二十一圖「イ」)各細管ノ端ニ位シ
細管ハ各視神經ニ達ス(第二十一圖「ロ」)吾人ハ上下ノ
諸物ヲ觀ルコ當リ能ク眼球ヲ廻轉スルヲ得ルト雖モ蟲類
ノ眼ハ然ラズ唯造附ケナリ故ニ此等ニ便センガ爲メ亦特
法ナカル可カラズキルビト、スペンス兩氏ノ說ニ據レバ
蠅ハ七千個ノ小眼面ヲ有シ蜻蛉ハ一萬二千個ヲ有シ又蝶
ハ一萬七千三百二十五個ヲ有スト云ヘリ其他蟲類コヨリ
其數各異同ナルモノトス倍蟲類ガ諸物ヲ觀ルノ形容如何

ニ就テハ學士諸輩亦異論ナキコト能ハズ或ハ此小眼面ハ
只諸物ノ一部ノミヲ見ルモノコシテ全復眼ヲ以テ初メテ
諸物ノ全域ヲ觀ルヲ得ベモキノトナシ或ハ各小眼面ヲ以

テ各自諸物ノ全域ヲ見ルノカアルモノトス甲ハ博士ミユ
ルラア氏ガ「サザイック」主義ナリ乙ハ碩學諸輩ノ保持ス
ルトコロナリ今甲乙兩主義中何レガ是ナルヤヲ判ゼンガ
爲メ余ハ試ニ解剖學上ヨリ蟲類ノ復眼ヲ驗査セント欲ス
ルナリ抑モ蟲類視神經ハ腦ノ神經節ヨリ起リテ其端網膜

第二十二圖



ニ連リ網膜ハ球狀ヲナシソノ凸面ヨリ無數ノ細管(第二
十二圖「サ」)ヲ輸出シ各管端ニ色素帶(シ)アリテ水晶体
(ス)ヲ頂載シ覆フニ蠶膜面(カ)ヲ以テス是レ即チ六角ノ
小眼面ナリ且此小眼面ヲ覆フニ一種ノ透明膜ヲ以テス此
構造ヨリシテ推考スルコ眼中物体ノ反射圖ハ各蠶膜背面
ニ投射シ其他ハ全ク色素帶ノ爲メニ吸收セラル、ヲ以テ

只鉛直ノ光線ヲ觀ルヲ得ベク且各細管ハツノ小眼面ヨリ
 光線ノ注射スルアルヲ以テ此直光線ノ數ハ細管ノ數ト同
 一ナレトモ網膜ニ至リテ感動ヲ與フルノ際ニハ既ニ悉ク衆
 合シテ一體トナリ夫レヨリ視神經ヲ傳ヒテ腦ニ達スルモ
 ノナレバ蟲類ハ若干ノ小眼面ヲ以テ諸物ノ全域ヲ觀ル
 吾人人類ニ異ナラザルモノナルヲ側知スベシ故ニ余ハ甲
 論ヲ保持スル方然ルベシト思考スルナリ今若シ乙論ヲ以
 テ正鵠ナリトナサハ余ガ最モ驚歎セザルベカラザルノ事
 實アルヲ發見スルナリ試ニ思ヘ余ガ前キニ述ベシガ如ク
 蠅ハ七十ノ小眼面ヲ有スルガ故ニ乙論者ノ說ニ據レバ若
 シ蠅ガ一片ノ魚肉ヲ注目シ飛ビ來ルノ際ハ蠅ノ心中一時
 ニ七千片ノ魚肉ヲ注目シ來ルモノナリト爲サミルベカラ
 ズ又蝶ノ一花ヲ目撃スルノ際ハ一時ニ一萬七千三百二十
 五個ノ花ヲ觀ルノ理ナリ豈ニ驚愕セザルヲ得ンヤ如斯繁
 雜ナル結果ヲ生ズル所以ヨリシテ考フレバ余ハ甲論ノ方
 最モ穩當ナルヲ信ズルナリ又單眼ハ復眼ト其質ヲ異ニシ
 且微細ノ物体ヲ明瞭ニ分別スルノ力アルモノナレバ蟲類
 若シ其頭ヲ花中ニ入ル、ノ際蜜槽ヲ探索スルニ便ゼンガ

爲メナルベシトノ說アリ

余ハ以上蟲類ノ視官ヲ説明セリ次ニ蟲類ハツノ視官ヲ以
 テ果シテ吾人ノ如ク諸色ヲ分別スルノ力アリヤ否ヲ論ズ
 ベシ既ニラポツク氏ハ蜂ニハ此能力アリヤ否ヲ試ミンガ爲
 メ左ノ實驗ヲナセリ則チ蜜ヲ玻璃ノ上片上ニ滴シ之ヲ青
 色ノ紙上ニ置ケリコノ青色ハ蜂ノ最モ嗜好スルトコロナ
 レバ蜂之ヲ觀ル毎ニ必ズ茲ニ來レリ氏ハ外ニ柑色ノ紙ヲ
 布ケル一片ヲ彼青巴片ノ場所ヨリ少シク隔リテ並ベ置キ
 蜂ノ不在ヲ窺ヒテ氏ハ青色片ト柑色片ト其位置ヲ交換セ
 ルガ蜂ハ猶ホ位置ノ變リタルニモ關ラズ直ニ青色片ノ方
 ニ飛ビ行ケリト云フ氏ハ其他眞、赤、綠、黒、白ノ諸色ヲ用
 井如斯交換シテ試驗ヲナセルガ蜂ハ其都度必ズ青色ノ方
 ニ行ケリト云フ故ニ蜂ハ青色ヲ好ミ且之ヲ分別スルノ力
 アルヲ知ルニ足レリ然ルニ同氏ガ蟻ニ於テ實驗セル成
 績ニ依レバ蟻ハ諸色ヲ分別スルノ力アレトモ吾人ノ感ズル
 色ニシテ蟻ニハ少シモ感ゼザルモノアリ亦蟻ノ能ク感ズ
 ル色ニシテ吾人之ヲ知ラザルモノアリ例之バ蟻ハ吾人ノ
 眼ニハ著ク見ヘザル一種ノ紫色ニ感ズルヲ最モ強シト云

フ依是觀之諸蟲ノ眼ヨリシテ觀ルトコロノ色ト吾人ノ眼
 ヨリシテ觀ルトコロノ色ト多少異同アリト謂フベキナリ
 然レモ概シテ蟲類ノ好ムトコロト吾人ノ嗜ムトコロトソ
 ノ諸色ヲ共ニスルハ大幸ト云フベキナリ然レモ其花色赭
 褐ニシテ肉色ニ類シ其臭氣(即チ芬香)モ亦肉ノ腐爛セル
 ニ似タル植物アリ如斯花ニハ蒼蠅等蟻集スルナリ諸蟲若
 シ悉皆蒼蠅ノ如ク臭惡ノ香色ノミヲ好ムコトアラバ其結果
 亦如何ゾヤ

扱余ガ論ゼシトコロニ據レバ百花ノ艷色芳香ハ蟲類ノ注
 目ヲ促ガシ以テ之ヲ誘引センガ爲メナリ亦花ニ斑文ノ如
 キ彩光アルハソノ蜜槽ノ方位ヲ示スモノニシテ既ニ余ガ
 蘭花ニ於テ説明セルガ如シ故ニ風ニ因リテ交通スルノ植
 物ハ蟲類ノ如ク殊更ニ之ヲ誘引スルノ必要アルヲ感セザ
 ルヲ以テ艷美ナル花瓣、芳香及ビ蜜ヲ有ゼズ即チ^{カシハ}榭、栗等
 ニ於ケルガ如シ

扱余ガ以上詳論セシガ如ク花ノ功用ヲ歴史ニ温子或ハ花ノ
 機關學上ヨリ諸部ノ効用ヲ辨晰シ來リテ之ヲ考熟スルコ
 嚮ニ余ガ披擧セル花ノ世ニアルハ要ハ唯人目ヲ慰ムルガ

爲メナリトノ論ハ甚ダシキ思想ナルヲ發見シタリ然リ而
 シテ花ノ目的タルヤ或ハ艷色ヲ顯ハシ或ハ清香ヲ放チ或
 ハ甘美ナル蜜ヲ釀シテ以テ蟲類ヲ誘引シ爲メニソノ媒介
 ナリ得テ交通シ依テ以テ果實ヲ結ブニ在リ一步ヲ進メテ之
 ナ論ズレバ植物ハ動物ノ如ク自在ニ運動ヲナス能ハズト
 雖モ尙ホ能ク蟲類等ヲ使用シテ其果實ヲ結ブノ目的ヲ保
 全スルモノナレバ亦之ヲ目シテ蟲類ヲ慰ムンガ爲メノ翫
 弄物トナス能ハザルヲ信ズルナリ依是觀之ハ世人若シ花
 ハ人目ヲ慰ムルノ裝飾品ノミ翫弄物ノミト思考スルコトア
 ラバ余ハ學理上ヨリソノ誤謬ヲ辨晰シ花ノ爲メニ其冤ヲ
 訴ヘント欲スルナリ

夫レ如斯植物ガ種々ノ方法ヲ設ケテ蟲類ヲ誘引スルハ畢
 竟ソノ果實ヲ結バンガ爲メナリトセバ此果實ヲ結バント
 欲スルハ即チ自己ノ種子ヲ永遠ニ傳ヘント欲スルニ外ナラ
 ズ所謂生存ノ競争ヲ爲シ以テ遂ニ自己俊優ノ全勝ヲ得ン
 ト欲スルモノナルヲ側知スベキナリ

余ハ講演ノ汎長ニ流ルヽヲ顧ミズ花ノ世ニ在ルノ要ハ唯
 人目ヲ慰ムルコトアラザル所以ヲ證明シ花ノ專務ハ人ノ爲

メノ裝飾品ナリ翫弄物ナリトノ說ヲ拔擧シタリト雖モ余ハ敢テ世人ガ花ヲ愛スルノ念ヲ制止スルノ意ニハ非ザルナリ余ガ目的トスルトコロノモノハ抑モ百花群芳ノ世ニ在ルハ何ノ爲メナルヤノ問題ニ就キ其眞理ヲ發見シ學理上花ハ唯「人目ヲ慰ムルノミ」ノモノニ非ザル所以ヲ論究セシナリ余ハ固ヨリ世人ガ花ヲ愛シ墨堤ニ狂スルモ嵐山ニ醉フモ各々ノ嗜好スルトコロニ任ジテ可ナリ世人ガ無害物ヲ以テ至上ノ歡樂トナスハ敢テ異論ナキコナリ然レモ余ハ茲ニ講演ヲ終ルニ當リ一言以テ之ニ加ヘントス曰ク世人若シ花ヲ愛スルノ意アラバ唯忙然ツノ容色外貌ノミニ止マラズ望ムラクハ學理上眞ニ花ヲ愛スルニ至ランコトナレ余ガ諸君ニ向テ渴望スルトコロナリ (畢)

雜報

○リヴァシッギ氏 同氏はオーストラリア國シドニー大學校の化學教授にして同大學校に十四五年間奉職おし今度一個年程の休業を得て氏の本國ある英國へ歸る途中本邦へ來遊したるに付き帝國大學の總長初め教授助教授の

諸氏へ去る十三日同氏を小石川久堅町ある植物園へ招待して午餐の饗應をなしたりと氏の倫敦のスクール、オブ、マインズに於て學業を修め卒業の後ケムブリッジ大學にて化學の助手となり一千八百七十二年命を奉じてシドニー大學校に至りて化學教授となれり爾後益々其專問とする所の學科を研究し其發見する所も尠からず且オーストラリア國に於て數年間學術獎勵の事に盡力したれば遂に一昨昨年倫敦のローヤル、ソサイテ一の會員に撰擧されたり我邦學問の本場ある帝國大學の教授助教授諸氏が學者の來遊と悦びて一ツに其好情を示さんが爲又二ツに其人の學說を聞き得んが爲め之を招きて今度の如き盛會を催ふさるゝハ實に好ましきと記者ハ思ふなり

○和樂會 善良ある交際の慣習を養成するハ最も好ましきとして文明の進歩するに隨ひ一日も欠く可らざるものあれば今度高等女學校の教員並に帝國大學教授諸氏が發意にて創設されたる和樂會の如きは實に有益あるものと思わる今其規則書を得たれば左に之を載す

一本會を和樂會と稱す

一本會の目的ハ會話、舞蹈、音樂、唱歌等の方法に依り善良

錠二、箕作佳吉、鮫嶋晋の諸氏ありと

一本會の目的ハ會話踏舞音樂唱歌等の方法に依り善良
ふる交際の慣習を養成するにあり

一本會の監督及事務ハ東京高等女學校教員及帝國大學
教授等より組成せる委員に委任するものとす

一本會の會員を分ちて通常會員及特別會員とす

一通常會員ハ東京高等女學校教員卒業生及第二級以上
の生徒とす但第三級以下の生徒にして十六歳以上の
者ハ特に通常會員たるを許さべし

一特別會員ハ委員より特別に入會を請ひたる貴婦人紳
士に限り他より入會申込むを得ざるものとす

一東京高等女學校の生徒一ヶ月金十錢其他の會員ハ一
ヶ月金五十錢の會費を出すべきものとす

一會場ハ東京女學校の教室を借受して之に充つ

一集會ハ一週間一回を以て通則とす

一本會の會員ハ愛敬親睦を本とし其裝飾の如きは専ら
質素優美を旨とし華奢に流るゝの風を戒むべし

又同會の現今の委員ハ豊田英雄子、武村千佐子、爪生繁
子、丸橋光子、鳩山春子、矢田部良吉、穗積陳重、櫻井

錠二、箕作佳吉、鮫嶋晋の諸氏ありと

○三宅中澤兩氏 先年醫學取調の爲歐洲各國へ赴れたる
醫科大學長三宅秀氏並に明治十六年に文部省の命を受け
て製造化學研究の爲獨乙國へ留學したる元東京大學助
教授中澤岩太氏ハ何れも先日無事に歸朝されたり

○東京化學會 同會ハ迺々隆盛に赴くに付き今度其會場
と事務所を京橋區西紺屋町ある地學協會内に設けたりと
又同會の會誌ハ從來一ヶ年ハ四冊を出版し來りしが今後
毎月之と出版して廣く世上に賣買を許す由來月ハ其
第九年會を開く等にて目下其準備中ありと云ふ

○東京高等女學校 主幹箕作佳吉君の發意にて同校生徒
の爲め毎週一回談話會を催ふし帝國大學の教授諸氏に請
ひて生徒の心得とあるべき事柄を講せしむるとの事ハ前
号に於て既に記載したる所あるが去二月廿三日ハ穗積
陳重君(優美と需用)二月二日にハ矢田部良吉君(慣例の
事)同九日にハ櫻井錠二君(女子の体育)同十六日にハ外
山正一君(英學ハ之と充分に學ぶを要す)の談話ありて何
れも女學生の爲にハ至極有益なるものあるべし穗積矢田

部兩氏の論説ハ載せて本誌にあれば看客一讀とべし又櫻井外山兩君の論説も追て之を本誌に登載とべし

○日本地震學會報告第四卷　ハ此頃出版せり其目次の

○日本氣象論(イー、クニツピング)○伊太利國イスキヤ

島地震論(ドクトル、ヂョボイス)○人造地震試驗(ジヨシミ

ルン)○米國并希臘の大地震(關谷清景)なり、丸善よて賣捌をふし其代價ハ一冊十四錢なり

○チャンバレーン氏蝦夷人の演説　去る十七日午後四時

より工科大学に於て日本亞細亞協會の集會あり文科大

學教授チャンバレーン氏ハ蝦夷人の話と演説せり同氏ハ

先般蝦夷人風俗取調之爲め北海道へ旅行去其報告ハ文科

大學編纂の帝國大學紀要に載たり今同氏演説の大意と述

れハ蝦夷人起原のとに付種々議論あれども蓋し一種特別

の人種なるべし而て斯程に毛深き人民ハ他にあらざるべ

し而毛少きハ日本人との雜種なり此毛深きとハ人種を區

別とるに甚緊要の点あり又言語とても他の國語に關係あ

るを見る但し昔より日本人と交際とるハ故に日本語の混

合し居るハ勿論なり又同地ハ美術と稱とる程の奇品ハ

ふし彼の有名ある蝦夷錦ハ其産物にあらざして全くサイ

ベリヤ國より傳來して内地に渡りしものあり、又衣服并

に彫刻物の模様ハ皆規律ある幾何學形をふせり此一事ハ

歐洲人の製作とるものに似たり其より土人の風俗、食住

の模様より物語り記傳等を論じ終に曰く蝦夷人の到底消

滅とへき人種にして永く此世界に存在とへきものとも思

はれと其原因種々あるへけれども、第一　其野蠻無氣力

あるの特性を有し教育を施とも文化に導く能ざると、第

二優等人種(日本人)來り年を遂ふて内地海岸を横領し近

來ハ野獸著去く滅と又漁獵の利ハ日本人に占らる、故へ

蝦夷人の活計益困難とあると、第三右等の事情の爲めに

忿怒を起し自然と身体を弱むる等あり、又曰く幕府の時

代ハ隨分土人を慘酷に取扱とも御維新以來ハ十分の保

護と與へ教育を普及とるるとに従事せらる然れとも人口の

年々減少とるハ是も所謂優勝劣敗の然らしむる所致方あ

しとハ言へ隣じへき事あり云々

演説中の説明を助くる爲めに土人の衣服、什器、漁網、
其他各種寫眞を陳列し會員の一覽に供せり來客中にハ英

米公使あり其他紳士貴婦人餘席あり迄に廣き物理學教室に充滿し甚盛會ありし由

○獨乙國ベルリン大學學生の員數 千八百八十六年冬學期にハ五千三百五十七人として實ハ夏學期ハ千〇六十六人を増し又前冬學期ハ比それハ百六十五人の増加あり

○肝臟が鐵を含むとハ付てザレスキー氏の試驗 肝臟が鐵を含むや否やハ付てハ諸説紛々其歸着する處を知らず又若し鐵ありとするも如何なる状態にて含有しあるや未だ明あらざりし處此頃ザレスキー氏 (Zalesky) が種々の試験をふし肝臟實質内殊ニ肝細胞及び細胞核ハ鐵が有機抱合物とありてあるとを見出し之に「ヘパチン」(Hepatin) の名を命じたり今同氏がふしたる試験成績を次に掲ぐ

肝臟		
鐵の百分量(プロセスント)		
新鮮のもの	乾燥したるもの	
1) 犬	0,0128	0,0891
2) 猫	0,0047	0,0429

- 3) 生れたての犬 0,00738 0,3907
- 4) 猫 0,0153 0,00687
- 5) ノリキ 0,0890 1,1835
- 6) 糞 0,0806 0,3573

○暖室内にて息が霧にありて見ると 冬期或ハ攝氏十五度あれば室内ハ於て呼吸をふと人間のいきが白霧とありて見るとハ誰よても既に承知のとあり然るに暖室内又ハ日光のハげしく射入する處にても此白霧を生せしむるとを此頃ヂュ、ポイ、レイモンド氏考出せり夫ハ只強呼吸をふし口ヲ閉ぢ胸腔内に於て暫く空氣を壓搾し然る後空氣ヲ吐出せば口の前ニ白霧が見へる之れ蓋し壓搾よりて温められたる空氣が肺中に永く滯留して水蒸氣ヲ以て飽和せられたるよよるあらん

○太陽の光輝 ボレド氏の太陽の光輝ハ満月の凡そ四十七萬倍ありと云ひツェルテル氏の又満月ハ比すれば凡そ六十一万九千倍ありと云へたるよ右二氏と全く別の試験方法にてエキスマル氏の太陽光輝ハ通常蠟燭の 10²⁷ 倍即ち千ワドリルリチ子ルありと云へるとを見出したたり

千クワドリルリチンとの丁度一の次は零を廿七個つけたる大数あり太陽の光輝の如此莫大のものあるべきか

○翌朝八時の温度を豫知す 日没前一時間或は二時間前より露點(タウポイント)を定め夫れに翌朝八時より日出の時間を減じたるものを加へば翌朝八時の温度よして同時翌日の平均温度を示すものあり例之は夏は於て太陽四時より出る時前夜の露點十四度なれば翌日八時の温度ハ十八度あり(14+4)=18。右ハドクトル、トロシアカ氏の實驗説ありとぞ

○日本國の氣候を歐州人には如何 日本國の氣候ハ平均温度十三度として從來の經驗に徴するは歐州人よ對してハ實は善良あり(夏期少しく弛緩を覺れども)然しあがら神經質のもの病氣ある婦人レウマチス患者並に肺癆患者よハ宜からず若し歐州婦人が壯健よして日本よ到着せば却て健全よ且爽快よ生活するを得べし且其夫妻の間よ生ずる處の小兒も亦頗る健康あるべし日本よ在留する歐人の小兒の死亡を耳よると少ふしと嘗て云ひたる日本國

京在留のドクトルベルツ氏の言をして真からしめば日本國ハ實は小兒の樂園(パラダイス)ありと云はざるを得ず即ち十二年間よ東京の獨乙領事館よ出生の報告ありたるとの二十六回あれば死亡ハ五年間よ只一回ありき又同年間よ英領事館よ届け出たる出生の數ハ七十六回よして只五年間よ一回死去の報ありたるのみありき又神戸及び大坂よては一千八百七十三年より一千八百八十五年迄は平均獨乙人四十乃至六十人(婦人小兒共ニ)よして總死亡の數ハ五人の男と一人の小兒のみありき又歐洲男子と日本婦人との間よ出来る小兒ハ体格概して日本風よして美麗あれども皆孱弱あり然し此事よ付てハ未だ充分よ調査あり又日本人等が信する如く歐洲の婦人よ日本男子との雜婚ハ果して人種改良の目的よ協ふものあるか若し婦人歐羅巴のものあれば決して好結果を見る能はずと考ふるあり歐洲人を襲ふ處の疾患ハ重よ動脈癩(アテロスキロシス)あり而て此疾患ハ日本人よハ少ふしマラリヤ病ハ往々あれども又輕症あり赤痢ハ稀よして輕し熱病ヂブテリヤ猩紅熱麻疹等の歐洲よ於るよ同じ痘瘡ハ

政府よりの命令にて種痘并に再種痘をなさしむるが故に甚だ稀れあり生殖器病は屢あれどもさほど不治と云ふべきものあり虎列刺は近年著しく流行したれども歐洲人并に支那人にして之れを傳染したるもの比較的は寡少あり又歐洲人の日本に於て最も流行する脚氣を罹るとかく又癩病を罹るものあり日本に流行する病氣を關して尙述ぶべき事あり即ち殊に上流社會に於て流行する處の肺癆并にバルツ氏肺ジストマの爲に起る處の肺出血屢あり而て患者の毎日ピルツ并に血液を吐出せりとも別は身體違和を覺へざるが如し黃熱病に更にあし死亡の割合は統計上の調査によれば歐洲各國に比して善良の地位に位するものあり即ち十八、六プロミルレ一あり然し此數は精確なるもの非るべし

(右本年一月刊行万有學探究雜誌抄譯)

雜錄

金華山詩

松本 源太郎

上惟是天。下惟是水。水天之間。屹乎其起。魚龍灑灑。風浪

春撞。中流砥柱。居然鎮邦。伊昔天平。黃金出島。獻之天子。改元勝寶。明珠射波。白鹿衝雲。異花名藥。撲地芬々。秀氣所鍾。高僧駐錫。廟貌莊嚴。塵機皆寂。梯航千里。仰止翠微。致虔即應。香烟其罪。俛入緣縲。紆餘尋究。手澤所存。夸奇競秀。天柱之石。弘法之泉。一則轟々。一則涓々。陟險凌危。蘿葛纏脚。既深以奧。忽又寥廓。大空貼水。綠髮半環。扶桑以東。疑無人寰。何來洪濤。瀚浩宛轉。賦崔激礁。虹流雪卷。燈臺突兀。島嶼威紆。峭壁如削。磐石如鋪。大函小函。膚剝骨立。金銀浪越。鯨號鯨泣。巖脉皴裂。深峽晝昏。是千人澤。潮汐吐吞。境轉勢弛。閑雅恬淡。青松交陰。細草列毯。終極絕頂。一氣無垠。曠然自放。宇宙微塵。飄倒興酣。大塊發噫。海若相迎。游新世界。顛氣回合。天止地行。列星下布。弧月西傾。御風步虛。萬里電逝。澹沈太平。細於帶細。美彼美洲。分明見招。碧樓丹闕。點綴如描。磬鳴鳥散。日出東海。嗟哉是妄。夢境何在。心神尚悅。空望仙壇。勝槩一失。投筆永歎。

內田遠湖曰。一篇奇瀨嶮瀨。而輿會標舉。讀之使人飄揚欲仙。讀得李太白集熟。方有此等作。

社告

東洋學藝雜誌第六十五號 明治二十年二月廿五日發兌

目錄

○東洋書籍編纂法 末松 謙澄

○アメイバ及ビ動物ノ卵

在獨逸フライベルグ大學校理學士 石川 千代松

○地文學講義第六回(地變力第一二)

理科大學教授 小藤 文次郎

○落語改良論 文學士 土子 金四郎

○花ノ効用ヲ論ス(前号ノ續キ)

在英國カムブリッヂ大學校 伊藤 篤太郎

雜報數件

○贈答廢止會設立旨趣

○遊浦賀記 評

内田 周平

○沖繩縣地質圖

B. K.

○學會記事

○地學會記事

Romaji Kai Nyūkaino Tetsuzuki.

本會ハ日本語ヲ書クニ是迄用井來レル文字ヲ廢シ羅馬字ヲ以テ之ニ代シテ目的トス○本會ヘ入會セント欲スル者ハ住所、姓名、職業ヲ記シ會費一ケ年金壹圓但シ諸學校學生ニ限リ金四拾錢一ヲ添ヘテ事務所ヘ申込ムヘシ○月々ノ雜誌ハ無代價ニテ會員ニ頒ツモノトス其他ノ出版物ト雖モ無代價ニテ頒ツコトアルベシ○細則入用ノ人

ハ郵券貳錢送付アレハ直ニ呈送スヘシ

東京神田區北神保町十五番地

羅馬字會事務所

●哲學會雜誌 第壹號 二月分再板 第二號 三月五日發兌 壹部金八錢 郵稅壹錢

第二號目次 ●哲學の必要を論じて本會の沿革及ふ承前(文學士井上圓了) ●(論說)我が造物主あるを信じて(元老二郎) ●(雜錄)哲學定義集(德永滿之) ●寄書こっくり様の話(續)(不思議庵主人) ●(雜報)遺傳の形質的根基、厭世教の影響、犯罪の原因種類、天才及早熟哲學研究會(記事) ●本誌半年分六部前金四拾二錢 郵稅六錢 ●文學士 浦水 井上圓了先生 著述

●佛敎活論序論 洋本紙數百六十四面 定價四拾五錢 郵稅十二錢 但當分之内特別價郵稅共五拾錢

右ハ井上先生が十餘年來東西兩洋の哲學を研究して佛敎の世界無比古今不二の宗教なる所以を發見し近頃世間の需は應じて其よく真理を台し國家を利するの實益ある所以を論述したるものなり其本論ハ破邪活論顯正活論護法活論の三大部より成り今ハ其序論に過ぎざるも一論の大要ハ初めハ真理と國家の關係を述べ次に國家と佛敎の關係を述べ終りに佛敎と真理の關係を述べたるものにして其論理ハ適切周密ある徹頭徹尾一点の間然する所あり實に近世に其類を見ざる活論にして世の宗教に志ある者ハ勿論政治に志ある者も哲學に志ある者も亦皆一讀せざるべからざる要書あり請ふ一本を購讀あれ

●國家學會雜誌 第壹號發兌 三月十五日

本誌ハ帝國大學敎授學士學生其他國家學專門家ノ創立ニ係ル國家學會ニ於テ講究スル所ノ憲法行政財政外交經濟政理統計等國家學ニ屬スル論說事項ヲ掲載シテ斯學ヲ研究スルノ資ニ供スル者也 ●第壹號目次 ○本會開設ノ主旨

度高ムルニハ一カロリヲ要スルガ故ニ、熱容量ト比熱